

看護を知る実習（1単位 45時間）

I. 実習目的

看護の対象となるあらゆる人々と看護専門職とのふれあいを通して、看護学を学ぶ上で必要な基礎的態度を養う

II. 実習目標

- 1) 健康に関わる看護専門職者の活動を知る
- 2) 病院の役割を知り、説明することができる
- 3) 病院や施設で療養する患者・入所者の特徴を知る
- 4) 看護学生としてふさわしい態度を身につけることができる

III. 実習場所

1. 病院実習

独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター
遮断医療法人慈泉会 相澤病院

2. 介護老人保健施設

松本市城山介護老人保健施設
介護老人保健施設 ハーモニー
介護老人保健施設 あずみの里
介護老人保健施設 安曇野メディア
介護老人保健施設 寿の里

3. 地域

あゆみ助産院、医師会検診センター、信州大学医学部附属病院移植医療センター、セイコーエプソン株式会社、赤十字血液センター松本献血ルーム、長野県看護協会、松本赤十字宅老所乳児院、ラポール宅老所

IV. 実習時間 1単位（45時間）

病棟実習：7時間（8時30分から16時30分 休憩60分）×2日間＝17時間

老人保健施設実習：7時間（8時30分から16時30分 休憩60分）×1日間＝7時間

地域施設見学：1.5時間（9：30～11：00）

学内実習 19.5時間 詳細は下記参照

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
オリエンテーション	2.5時間	教室	・実習に必要な学習計画を進めるために、実習の目的・目標を知る ・実習前目標を立案する ・病院、施設、企業等の特性や看護職について調べる
事前学内実習	5時間	教室	・目標面接を受け実習目標を明確にする ・追加学習を進める
見学実習の共有	3時間	教室	・地域で働く看護専門職の活動や役割についてまとめる
実習まとめ	6時間	教室	・健康に関わる看護専門職者の活動と役割についてまとめクラスで共有し学びを深める ・目指したい看護師像を明確にする
実習の振り返り	3時間	教室	・チーム目標の振り返りをする ・自己評価を基に担当教員と個人面談を行い自己課題を明確にする

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 健康に関わる看護専門職者の活動を知る	1.1 地域で働く看護専門職者の特徴を記述できる	1.1.1 事前に、地域で働く看護専門職者の特徴を調べる

	1.2 病院・施設で働く看護師の特徴を記述できる	1.1.2 地域で働く各看護専門職者から実際の説明をうける • どのような人々が対象でどのような場所で働いているか • 看護活動の内容 • 看護活動で大切にしていること 1.1.3 各看護専門職者の説明後、感じたことや疑問について各看護専門職者に質問し助言を受ける 1.1.4 各看護専門職者の特徴について、自分の考えを記述する 1.2.1 病棟・施設でオリエンテーションを受ける 1.2.2 病棟師長・指導者から看護活動で大切にしていることを聞く 1.2.3 看護師と共に行動した体験から看護師の役割を考える 1.2.4 実習で学んだことを振り返り、健康に関わる看護師の活動や役割についてグループで意見交換する 1.2.5 グループでの学びをクラスで共有する。自身の実習体験と比較検討し疑問点は質問をする 1.2.6 看護師とともに行動した体験を通して、看護活動や役割について特徴を記述する
2. 病院の役割を知り、説明することができる	2.1 病院の機能について記述できる 2.2 病院に従事する各職種の特徴を記述できる	2.1.1 病院の概要、実習病院の機能や役割について、病院のホームページなどを活用し事前学習をする 2.1.2 病院オリエンテーションを受ける • 地域における病院の役割 • 提供医療の特徴 • チーム医療 • 災害対策 2.2.1 病院に従事する各職種の役割について講義資料やテキストなどで事前学習する 2.2.2 病院に従事する各職種から各部署を見学しながら、役割やチーム医療で大切にしていることを聞く • 医師 • 診療看護師・認定看護師 • 検査技師 • 放射線技師 • 薬剤師 • 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 • 管理栄養士 • 医療ソーシャルワーカー 2.2.3 病院の役割と各職種について事前学習と比較し、学びを記録用紙に記述する
3. 病院・施設で患者・入所者の特徴を知る	3.1 病棟や施設の構造と特徴について記述できる	3.1.1 講義で学んだ療養環境を活かし、事前学習をする 3.1.2 病棟・老人保健施設からオリエンテーションを受ける • 構造や特徴 • 患者・入所者の特徴、日課、週間スケジュール • 安全対策 3.1.3 患者・入所者がどのような場所で生活しているか、観察する • ベッド周囲 • 食事の場所、トイレや洗面所、浴室、廊下など

	3.2 療養している患者・入所者の特徴を記述できる	3.1.4 実習最終日、体験内容を踏まえた30分程度のカンファレンスをする。生活環境についての気づきや感じたこと等の意見交換をし助言を得る 3.1.5 特徴や学びを記録用紙に記述する 3.2.1 看護師1名に学生1名～2名が共に行動し、日常生活援助及び診療の補助を見学する（施設は看護師または施設職員とする） 3.2.2 見学時に、目的や内容、注意事項の説明を受ける 3.2.3 看護師または施設職員と関わっている時の患者・入所者の反応を観察する 3.2.4 患者または入所者に質問をする場合は、自己紹介をして了解を得てから行う 3.2.5 各実習2日目、体験内容を踏まえた30分程度のカンファレンスをする。看護師と共に行動した体験や直接コミュニケーションから得た気づきや感じたこと、困ったこと等から患者・入所者についての意見交換をし、助言を得る
4. 看護学生としてふさわしい態度を身につけることができる	4.1 保健医療チームの一員として責任ある行動や倫理的な態度がわかる 4.2 チームメンバーと協力し、実習を行うことができる 4.3 主体的に学習できる	4.1.1 看護チームの情報を共有し、適切なタイミングで報告・連絡・相談、協力していることを知る 4.1.2 自分の行動について、自分ができることや他者に依頼することを判断し、適切な人にタイムリーに報告・連絡・相談する 4.1.3 看護学生として責任を持って行動する - 相手の話を素直に聴き、話の内容の意味を考える - 身だしなみを整え、誰に対しても言葉遣いに留意し、挨拶をする - 記録物、個人情報の管理に留意する - 説明された規則を守る - 時間や約束事を厳守する - 実習に影響を及ぼすことがないよう食事や睡眠に留意し、自己の体調管理（心身の健康）をする 学生便覧 参照 臨地実習に関する具体的事項 松本看護専門学校生の倫理 4.2.1 チームの活動の場面（例：カンファレンス）では積極的に参加し、意見交換をする - メンバーの話を最後まで聞く - 自分の考えを他者に伝える 4.2.2 メンバーとして、自己の果たすべき役割を理解し、周囲への影響を考え行動する - 絶えず相手の立場で考える - 他のメンバーに関心を向け、協力しながら実習を行う 4.3.1 実習目標を理解し、目標を達成するための自己の目標を立案する 4.3.2 目標を達成するために必要な学習（知識・看護技術）計画を立て、実習の準備を行う 4.3.3 わからないことは調べる、他者に聞く等の行動を起こし、そのままにしない

療養生活に必要な援助を考える実習（1単位 45時間）

I. 実習目的

1. 観察・コミュニケーションを通して、健康障害を持つ対象の日常生活の状況を知り、患者に必要な日常生活援助を実践する能力を養う
2. 看護をする上で必要な基礎的態度を養う

II. 実習目標

1. 患者の日常生活の状況を知り、日常生活援助の実施ができる
2. 患者と人間関係を築くためのコミュニケーションが図れる
3. 看護者としての基礎的態度がわかる
4. 看護実践を通して自己の看護を振り返り、看護の意味を考える

III. 実習場所

独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター
 社会医療法人財団慈泉会 相澤東病院
 医療法人 青樹会 一之瀬脳神経外科病院（東病棟）
 日本赤十字社 安曇野赤十字病院

IV. 実習時間 1単位（45時間）

病棟実習 1日7時間（8：30～16：30 休憩60分）×4日間＝28時間
 学内実習：17時間（下記参照）

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
オリエンテーション	2時間	教室	・実習に必要な学習を計画的に進めるために、実習の目的・目標や具体的学習内容を知る
事前学内	5時間	教室	・受け持ち患者を決定し、必要な看護についての事前学習・演習をする ・担当教員と目標面接をし実習目標を明確にする ・受け持ち患者に必要な日常生活援助の演習（バイタル・環境整備）
事後学内	5時間	教室	・受け持ち患者に必要な援助計画の追加・修正をする ・受け持ち患者とのかかわりを振り返る ・実習まとめの準備
実習のまとめ 実習の振り返り	5時間	教室	・クラスで学びを共有する ・チーム目標の振り返りをする ・自己評価を基に担当教員と個人面談をし自己課題を明確にする

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 患者の日常生活の状況を知り、日常生活援助の実施ができる	1.1 患者の日常生活の状況を記述できる	1.1.1 事前に受け持ち患者を決定し、事前学習をする 1.1.2 実習1日目、受け持ち患者の入院目的、現病歴・治療・経過、安静度について指導者より説明を受ける 1.1.3 指導者より説明を受けた内容をカルテで確認する 1.1.4 実習1日目、2日目は看護師と共に行動し、受け持ち患者に実施されている日常生活援助を見学する 1.1.5 見学を通して、患者の日常生活状況について情報収集する（食べる、トイレに行く、清潔・整容、動く、眠る）

		1.1.6 カルテからの情報収集や援助時の観察、バイタルサイン測定の実施、その他の身体面を観察し、現在の患者の状況の情報収集をする 1.1.7 コミュニケーション技術を用い、患者から入院前の生活、入院中の生活について情報収集する 1.1.8 受け持ち患者のベッド周囲の環境の観察は、了承を得て、患者と関わりながら行う 1.1.9 受け持ち患者のベッド周囲の環境について、安全・安楽・自立を促す視点から情報を得る 1.1.10 患者の心理面・社会面からの情報を得る 1.1.11 情報は全体像の用紙に事実を記載する 1.1.12 状態把握に必要な観察項目を検温表にあげる
	1.2 受け持ち患者の日常生活状況から日常生活援助の必要性が記述できる	1.2.1 全体像用紙に情報を整理し、受け持ち患者の日常生活の状況や環境を観察し、患者の生活はどの部分にどのくらいの援助（一部・全介助）が必要か、なぜ必要かを考えを記述する 1.2.2 実習3日目までに受け持ち患者の情報から根拠を明確にして必要な援助を見出し指導者・教員に相談し実施する援助を決定する
	1.3 受け持ち患者の日常生活援助を計画・実施し、援助の振り返りができる	1.3.1 援助計画（環境整備は学校から配布）の根拠と留意点をふまえ、実習4日目までに環境整備を実施する。実施後、振り返り受け持ち患者に必要な環境整備について考える。実習2日目に環境整備についてカンファレンスを行う。受け持ち患者の安全・安楽・自立を考慮し、具体的な方法や留意点を立案する。 • バイタルサイン測定 • ベッド周囲の環境整備 • 日常生活援助 1.3.2 環境整備の援助計画の観察項目、方法、留意点を指導者・教員に報告し、指導・助言を受けたことを追加・修正する 1.3.3 受け持ち患者の状態を観察、バイタルサイン測定をした値をもとに援助の実施が可能か判断し、指導者や教員に報告・相談する 1.3.4 患者の了承を得てから指導者または教員と共に実施する 1.3.5 援助の実施はグループで時間、順序の調整を指導者・教員と行い協力して実施する 1.3.6 スタンダードプリコーションを遵守し、準備、実施、片付けをする 1.3.7 実施した援助は、援助の目標に対して患者の反応や援助の効果から、援助の方法が患者にとって最善だったのか日々の記録で振り返り記載し援助計画に追加・修正を行う
	1.4 援助の実施前には相談ができ、実施後は速やかに報告ができる	1.4.1 援助の実施前に指導者に確認と相談をし、実施後は速やかに指導者に、実施した援助内容や実施前・中・後反応を報告する 1.4.2 一人で行って良いと許可が出た援助は、援助の実施前に指導者に留意点や実施方法を確認し、実施後は速やかに報告する

2. 患者と人間関係を築くためのコミュニケーションが図れる	2.1 患者と人間関係を築くためのコミュニケーションを図ることができる	2.1.1 患者との関係を築くため、言葉遣いや身だしなみ、態度を考えながら患者と関わる 2.1.2 患者の言葉を傾聴し、言葉以外で表現していることにも関心を向ける 2.1.3 自分の先入観でとらえず、患者の言動をありのままに受け取り、患者の表現している意味を考える 2.1.4 看護師とともに行動し受け持ち患者とのコミュニケーション場面や援助場面を見学する 2.1.5 リフレクション用紙を用いて、場面を具体的振り返り、患者と自分の関りを振り返る
3. 看護者としての基礎的態度がわかる	3.1 保健医療チームの一員として責任ある行動や倫理的な態度がわかる 3.2 チームメンバーと力し、実習を行うことができる 3.3 主体的に学習ができる	3.1.1 看護チームが情報を共有し、適切なタイミングで報告・連絡・相談、協力していることを知る 3.1.2 自分の行動について、自分ができることや他者に依頼することを判断し、適切な人にタイムリーに報告・連絡・相談する 3.1.3 看護学生として責任を持って行動する - 相手の話を素直に聴き、話の内容の意味を考える - 身だしなみを整え、誰に対しても言葉遣いに留意し、挨拶をする - 記録物、個人情報の管理に留意する - 病棟で説明された規則を守る - 時間や約束事を厳守する - 実習に影響を及ぼすことがないよう食事や睡眠に留意し、自己の体調管理（心身の健康）をする ＜学生便覧＞ 参照 臨地実習に関する具体的事項 松本看護専門学校生の倫理 3.2.1 チーム活動の場面（例：カンファレンス）では積極的に参加し、意見交換をする - メンバーの話を最後まで聞く - 自分の考えを他者に伝える 3.2.2 メンバーとして、自己の果たすべき役割を理解し、周囲への影響を考え行動する - 絶えず相手の立場で考える - 他のメンバーに関心を向け、協力しながら実習を行う 3.3.1 実習目標を理解し、目標を達成するための自己の目標を立案する 3.3.2 目標を達成するために必要な学習（知識・看護技術）計画を立て、実習の準備を行う 3.3.3 わからないことは調べる、他者に聞く等の行動を起こし、そのままにしない
4. 看護実践を通して自己の看護を振り返り、看護の意味を考える	4.1 自己の看護を振り返り、自己の課題を明確にできる	4.1.1 リフレクション用紙を用いて、自己の行動を振り返り、課題を明確にし、行動の改善を考える 4.1.2 行動計画書を用いて、指導者や教員に報告・相談し、自己課題を記載し、翌日の行動計画書に自己の目標を記載する 4.1.3 「実習を通して学んだこと」に自分の看護に対する思いや考えを言語化する 4.1.4 カンファレンスやまとめの学びを共有し、看護師になるための課題を明確にする

看護展開実習（2単位 90時間）

I. 実習目的

看護過程を展開し、患者の生活過程を整えるための看護実践を通して看護について考える

II. 実習目標

- 1) 看護過程の思考を用い、患者の生活過程を整えるための看護実践ができる
- 2) 患者を尊重した人間関係が結べる
- 3) 看護者としての基礎的態度がわかる
- 4) 看護実践を通して自己の看護を振り返り、看護の意味を考える

III. 実習場所

社会医療法人財団慈泉会 相澤東病院
日本赤十字社 安曇野赤十字病院
医療法人青樹会 一之瀬脳神経外科病院
独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター

IV. 実習時間 2単位（90時間）

実習時間 1日7時間（8:30～16:30 休憩60分）×9日＝63時間

学内実習27時間（下記参照）

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
オリエンテーション	2時間	教室	- 実習の目的・目標、進め方がわかる - 実習に向けて必要な学習内容を知る
事前学内	9時間	教室 実習室	- 受け持ち患者を決定し、疾患・治療・検査・看護についての事前学習をする - 患者に必要な演習を行う - 目標面接をし、実習目標を明確にする
中間学内	6時間	教室	- 情報関連図やアセスメント整理し、看護計画を立案する - 中間評価を行い自己の課題を明確にする
看護過程の思考の振り返りと看護実践の振り返り	5時間	教室	- 実習記録を用い、看護過程の思考を振り返る - 実施した看護の意味を整理しチーム内で共有する
実習まとめ 実習の振り返り	5時間	教室	- 実習まとめから看護の意味を考える - 自己評価を基に担当教員と個人面談をし、自己課題を明確にする

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 看護過程の思考を用い、患者の生活過程を整えるための看護実践ができる	1.1 受け持ち患者の全体像を捉えることができる	1.1.1 患者を理解する - 受け持ち患者の病態、検査・治療、看護について学習し病態関連図を作成する - 患者の病態を知るための観察点を病態関連図に記載し、いつ・どのように観察するのかを具体的に記載する - 観察点を検温表に記載する - 発達段階、発達課題について学習する
	1.2 意図的な情報収集ができる	1.2.1 健康障害や入院が患者の日常生活に及ぼす影響を捉える 情報収集は、患者・家族、医療スタッフとのコミュニケーション、カルテ等から情報の必要性や優先度を考え行う ＊優先度とは 「生命維持に関すること」「苦痛に関すること」「安全のニードに関すること」

		• 援助の見学・実施を活かし患者の状態把握を行う • 患者の状態を把握する際、フィジカルイグザミネーション（視診・聴診・触診・打診）の技術を活用する • 病態の理解、症状の観察は、病態関連図を用い行う • 疾患に関連した症状と日常生活行動「生命維持」「食べる」「トイレに行く」「動く」「眠る」「清潔・整容」「聞く・話す」への影響を優先して情報収集を行う • 患者の現病歴、入院から受け持つまでの経過、行われている治療、検査について情報収集し、現在の病態、健康状態・健康段階を捉える • 受け持ち患者の入院前の生活習慣や日常生活の状況を知り健康障害や治療による日常生活上の制限を考える
		1.2.2 健康障害や入院生活が、患者の心理面に及ぼす影響を捉える • 受け持ち患者の身体面・生活面に対するニーズを知る 1.2.3 健康障害や入院生活が、受け持ち患者の社会面に及ぼす影響を捉える • 患者をサポートする家族背景を知る • 患者の発達段階と発達課題を知る
	1.3 情報の分析・解釈ができる	1.3.1 アセスメントガイドを活用し、患者のもつ強みや気になる事柄を記載しその理由を考える 1.3.2 現状を引き起こしている原因・誘因は何か(原因)、このままの状態が続けばどのようなことが起こりうるか(成り行き)を明確する。介入や観察が必要であるか判断する。解決すべき問題と介入を明らかにする。情報が不十分な場合は、不足な情報を具体的に記載する • 受け持ち患者の疾患によって引き起こされる身体・心理・社会的状況について、情報の関連性を情報関連図に示し全体像を捉える
	1.4 患者の看護問題をあげることができる	1.4.1 #を用いて看護問題をあげ、その原因・誘因をE、症候をSで表す(P・E・S方式で記載) 1.4.2 看護問題に対して「生命維持に関するもの」、「苦痛に関すること」、「安全のニードに関すること」を優先し、病態の変化や健康段階を視野に入れ優先順位を決める 1.4.3 実習中に介入する看護問題は、優先順位に関係なく患者の日常生活と関連するものとする
	1.5 患者の看護目標(期待される結果)が設定できる	1.5.1 患者の健康段階を踏まえ、看護問題に対し看護援助を行った結果としての成果や患者にとって望ましい最終の結果としての目標を記載する 達成日(評価日)を設定する • 症状、症候がどのような事が望ましいか • 看護問題の原因・誘因を解決するための患者目標であるか 1.5.2 目標はRUMBAの法則に従い記載する (R:現実的 U:理解可能 M:測定可能 B:行動表現 A:到達可能) 1.5.3 患者の退院時のゴールを考えながら長期目標を設定する
	1.6 患者の状態に応じた看護計画が立案できる	1.6.1 アセスメントから患者の個性や強みを活かし看護計画を立案する 1.6.2 計画の内容はOP・TP・EPで表記する • OPは「症状・徴候」「原因・誘因」「期待される結果」にあげ

	1.7 安全・安楽・自立を考慮し主体的に実施できる 1.8 実施した成果を評価し必要に応じ、計画の追加・修正ができる(援助計画も同様)	た事柄の観察項目をあげ、いつ(観察のタイミング、時間など)、どのように(観察方法)観察するか明記する • TPは、実際に行う援助が誰もが共通理解できるように明記する(5W1H)また、患者への配慮、援助の際の留意点を組み込む • EPでは、主に看護問題に関連した具体的な説明内容を明記する。その際、説明時の留意点を明記する 1.7.1 看護計画を立案するまでは援助計画に、患者目標、主な方法、留意点を明記し指導者と相談し実施する 1.7.2 看護計画立案後は、看護計画に基づいた援助を行動計画にも立案し指導者と相談し実施する 1.7.3 看護問題に対する看護計画と直接関連しない看護援助(状態に関連した観察、清潔援助などの日常生活援助等)については、援助計画に目的、方法、留意点を記載し指導者と相談し実施する 1.7.4 日々の行動計画は、その日の患者の状況に応じて行動内容を変更する 1.7.5 援助の前・中・後を通して、患者の反応(訴え、表情、動作など)を観察し、適切な説明や声かけなどコミュニケーションを用い主体的に実施する • 看護の実施は、指導者、教員の指導のもと行う *主体性:指示を待つだけでなく、学生自身が考え相談し自ら行動すること 1.7.6 実施前に相談し、実施後は速やかに実施した援助内容や実施前・中・後の反応や結果を正確に報告する • 報告のタイミングを、指導者と調整する 1.8.1 日々の記録にSOAP形式で記載する。 援助の実施後は、患者の状態や反応から、期待される結果(看護目標)を述べ、到達目標に近づいているか、実施した援助は適切だったかを評価する。 適切でない場合は、期待される結果に近づけるためにどのようにしたら良いか考え、計画の追加・修正を行う • 看護計画立案後からSOAP記録を行う 1.8.2 看護計画の短期目標について、目標が効果的に達成されたかどうか評価し看護計画を修正・追加する • 目標達成度 • 患者の状態は改善されているか • 具体策の内容は患者に応じているか • 情報に不足はないか
2. 患者を尊重した人間関係が結べる	2.1 患者や家族の思いに気づき人間関係を築くことができる	2.1.1 コミュニケーション技術(言語的・非言語的コミュニケーション)を用い、患者および家族の思いを知る • 自己の価値観で捉えず、患者や家族の表現していることをありのまま受け取り患者や家族の思いや表現している意味を考える 2.1.2 患者の思いと自己の捉え方にズレがないか確認する • 患者とのコミュニケーションの場面で必要があればリフレクションを行い振り返る 2.1.3 患者や家族の立場を尊重し、患者・家族が求めていることを察した聞き方や伝え方をする

3. 看護者としての基礎的 態度がわかる	3.1 保健医療チームとして 責任ある行動や倫理的 な態度がわかり行動で きる 3.2 主体的に学習できる	3.1.1 チームで看護するために自己の役割を考え行動する ・チームメンバーと適切なコミュニケーションをとる ・チームメンバーの動きに配慮し状況に応じた行動をと り協力する ・知り得た事柄はチームで共有する ・絶えず相手の立場で考える ・チーム活動の場面（カンファレンスなど）では積極的に 参加し、意見交換をする ・自分の考えを相手にわかるように伝える 3.1.2 相手を尊重した態度で行動する ・相手の意見を素直に聴き、話の内容の意味を考える 3.1.3 チームで看護をするために必要な報告・連絡・相談・調整 を心掛け行動する ・自分ができることや他者に依頼することを判断し、適切な 人に適切なタイミングで報告・連絡・相談・調整をする 3.1.4 看護学生として責任を持って行動する ・TPOに合わせた言葉遣い、身だしなみ、挨拶をする ・記録物の管理、個人情報管理に留意する ・病棟で説明された規則を守る ・時間や約束事を厳守する ・他者への影響を考えて心身の健康状態を適切に行いよ り良い状態で実習に臨む ＜学生便覧＞ 参照 臨地実習に関する具体的事項 松本看護専門学校の倫 3.2.1 実習目標を理解し目標を達成するための目標をあげる 3.2.2 目標を達成するために必要な学習（知識・看護技術）計画 を立て学習する 3.2.2 わからないことはそのままにせず、調べる・他者に聞くな ど探求行動をとる ・他者の意見や助言を謙虚な姿勢で聴き、助言を活かし学 習する
4. 看護実践を通して自 己の看護を振り返り、 看護の意味を考える	4.1 自己の看護を振り返 り、自己課題を明確に できる 4.2 行った看護の意味を考 えることができる	4.1.1 実習終了後、自己の看護実践で気になったこと・気づいた ことなどを振り返り、自己の課題を明確にし行動の改善 を考える 4.2.1 自己の看護実践を振り返り、自己の行った看護と関連づ けて自己の看護の意味を述べる

在宅医療を支える実習（2単位 60時間）

I. 実習目的

1. 疾病や障害をもちながら地域で生活している人々とその家族を理解し、在宅看護における看護職の果たす役割と看護の実際を学ぶ
2. 地域住民の健康や生活を支えるための社会資源の実際を学ぶ

II. 実習目標

1. 訪問看護実習

1. 疾病や障害をもちながら地域で生活している人々とその家族を理解する
2. 疾病や障害をもちながら地域で生活している人々とその家族の生活を尊重した看護の方法を学び、指導者と一緒に実施できる
3. 受け持ち療養者に必要な支援が考えられる
4. 疾病や障害をもちながら地域で生活している人々とその家族が利用している制度・社会資源を知り、多職種の連携を踏まえた看護の役割について考えることができる
5. 訪問のマナーがわかり、看護学生としてふさわしい対応ができる

2. 退院支援室・地域連携室実習

- 1) 継続的に医療が提供され、患者・家族が望む生活を送れるための退院調整における看護師の役割を理解する
- 2) 継続的に医療が提供され、患者・家族が望む生活を送れるために地域連携室がどのような役割を果たしているか考えることができる
- 3) 多職種連携の必要性や連携の仕方がわかる
- 4) 在宅医療チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる

3. 透析センター実習

- 1) 透析センターにおける看護活動の実際を知る
- 2) 透析療法を必要とする患者の実際を知る
- 3) 在宅医療チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる

4. 地域診療所実習

- 1) 地域診療所が在宅療養している人の健康を支えるためにどのような役割を果たしているか考えることができる
- 2) 地域診療所における看護職の役割を理解する
- 3) 在宅医療チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる

III. 実習場所

1. 訪問看護実習

藤森訪問看護ステーション・松本協立訪問看護ステーション
丸の内訪問看護ステーション・松本西訪問看護ステーション
なべりん訪問看護あいステーション

2. 退院支援室実習

社会医療法人財団慈泉会 相澤東病院
社会医療法人抱生会 丸の内病院

3. 透析センター実習

医療法人藤森医療財団 藤森病院

4. 地域診療所実習

杉山外科医院・小見山医院

Ⅳ. 実習時間 2単位(60時間)

臨地実習 50.5時間

学内実習 9.5時間(下記参照)

実習の進め方・内容

内 容	時間	時期	場所	目的・内容
訪問看護実習 臨地実習：4日間 学内実習	7.5時間 ×4日 3.5時間	5月～11月	各訪問看護ステーション 教室・在宅実習室	(1)訪問看護師とともに在宅療養者を訪問し、療養生活の状況や看護の実際を学ぶ。 (2)事例の療養者に必要な支援を考え演習を実施する。
事前オリエンテーション	1時間	1週目火曜	教室	スムーズに実習が開始できるために、実習場所、ステーションの特性を知る。
学内学習	1時間	1週目火曜	教室	受け持ち療養者を1名決め、療養者に必要な支援を考える。
	1.5時間	3週目木曜	教室	実習での学びを振り返り、自己の課題を明確にする。
退院支援室・地域連携室実習 現地オリエンテーション 臨地実習：1日間	1時間 6.5時間	5月～11月	相澤東病院 丸の内病院	退院支援室・地域連携室実習では、継続的に医療が提供され、患者・家族が望む生活が在宅で送れるために地域連携室の機能と、退院支援室の看護師の役割について見学する。
透析センター実習 臨地実習：1日間	5.5時間	5月～11月	藤森病院	透析センターで行われている看護活動の実際を見学する
地域診療所実習 臨地実習：1日間	7.5時間	5月～11月	杉山外科医院 小見山医院	地域診療所で行なわれている診察の補助業務・看護の実際を見学する。 訪問診療・往診に同行させて頂き、診療の実際を見学する。
学内学習 オリエンテーション	1時間	1週目火曜	教室	在宅看護論実習で何を学ぶかを共通認識し、計画的に学習を進めるために、実習の目的・目標や具体的学習内容を知る。 実習目標の明確化。実習に必要な学習を行う
最終カンファレンス	1.5時間	3週目木曜	教室	実習での学びをチーム間で共有する。
計	60時間			

訪問看護実習

1. 実習時間(37時間)

事前オリエンテーション：1時間

学内学習：事前1時間　まとめ1.5時間

臨地実習：7.5時間×4日間

学内実習：3.5時間

2. 実習場所

	実習時間	集合時間
藤森訪問看護ステーション	8:30～17:00	8:20
松本協立訪問看護ステーション	8:45～17:15	8:25
松本西訪問看護ステーション	8:30～17:00	8:25
丸の内訪問看護ステーション	8:45～17:15	8:30
なべりん訪問看護あいステーション	8:30～17:00	8:20

3. 実習内容

(1) 訪問看護師とともに在宅療養者を訪問し、療養生活の状況や看護の実際を学ぶ

(2) 受け持ち療養者を1名決め、療養者に必要な看護を考える

(3) 事例の療養者に必要な支援を考え演習を実施する

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 疾病や障害をもちながら地域で生活している人々とその家族を理解する	1.1 地域で生活している人々とその家族に支援を提供する上で必要な観察や情報収集ができる 1.2 地域で生活している人々とその家族の生活と生活の場について考えることができる	1.1.1 生活状況について情報を収集する - 療養者の基本情報(年齢・性別・職業など) - 家族構成(家族・介護面) - 介護者の状態(家族・介護面) - 住環境(環境・生活面) - 生活基盤(環境・生活面) - 経済面(環境・生活面) - 生活状況を踏まえた日常生活活動(身体面) 1日、1週間の生活 - 療養者、家族のニーズ(心理面) 1.1.2 病状・治療状況について情報を収集する - 基礎疾患 - 既往歴 - 現在の治療状況、内服 - 症状 ※受け持ち療養者の全体像を記載する 1.2.1 受け持ち以外にも同行訪問させて頂く 1.2.2 療養者の実際を知り、地域で生活している人々とその家族の生活について考える 1.2.3 事例の療養者の生活について考える

2. 疾病や障害をもちながら地域で生活している人々とその家族の生活を尊重した看護の方法を学び、指導者と一緒に実施できる	2.1 安全で安楽な看護技術を指導者とともに、実施できる 2.2 人々の意思を尊重した援助ができる	2.1.1 訪問前に援助の計画を指導者に確認し、指導者とともに実施する •行われている援助がなぜ必要か、その意味（優先度含む）を考える（アセスメント用紙） •健康状態の観察 バイタルサイン等 •日常生活援助 •コミュニケーション 療養者、家族の相談と対応 家族看護の実際 •介護状況の確認、指導 •報告・記録 •医療処置（見学） •受け持ち以外の療養者へも同様に実施 2.1.2 安全に援助が実施できる •支援計画に基づいて実施 2.1.3 事例の療養者に必要な援助を考え実施する 2.2.1 受け持ち療養者に対して、実施後振り返りを行う •リフレクションシートで振り返る 2.2.2 介護者による介護を尊重した援助ができる
3. 受け持ち療養者に必要な支援が考えられる	3.1 受け持ち療養者に必要な支援計画を立案する 3.2 受け持ち療養者に必要な支援を誰が行っているかわかる	3.1.1 受け持ち療養者の情報を分析し、現在の受け持ち療養者に必要な支援計画を立案する •受け持ち療養者に対する社会資源の活用状況を知る •受け持ち療養者に行われている支援がなぜ必要か考える 3.1.2 受け持ち療養者及び家族に必要な看護を考え、指導者とともに実施できる 3.2.1 受け持ち療養者に必要な支援を考え、多職種（インフォーマル含む）を含めた支援計画を立案する
4. 疾患や障害をもちながら地域で生活している人々とその家族が利用している制度・社会資源を知り、多職種との連携を踏まえた看護の役割について考えることができる	4.1 受け持ち療養者以外の訪問にも同行し、多職種との連携を知る 4.2 多職種との連携を踏まえた看護の役割について考えることができる 4.3 訪問看護の必要性を考える	4.1.1 多職種との連携方法・内容の実際を知る 4.1.2 カンファレンスに参加する 4.2.1 多職種との連携を踏まえた看護の役割について考察する 4.3.1 訪問看護ステーションについて事前学習を行う •設置基準、対象者、訪問看護ステーションの変遷、関係する法律など 4.3.2 全体オリエンテーションを受ける •ステーションの設置基準、業務内容 4.3.3 訪問看護の必要性について考察する

5. 訪問のマナーがわかり、看護学生としてふさわしい対応ができる	5.1 訪問マナーを理解した行動、身だしなみ、言葉遣い、挨拶ができる 5.2 実習に必要な学習をして主体的に実習に臨むことができる 5.3 看護する責任を考えられる	5.1.1 訪問のマナーを守り訪問する • 実習態度 • 挨拶 • 身だしなみ • 言葉遣い 5.1.2 看護学生として節度ある態度で実習に臨むことができる 5.2.1 実習目的・目標と照らし合わせて自己の目標を明確にし、達成のための学習計画を立て実施する • 事前学習を行う • カンファレンスに積極的に取り組む • 自己学習したことを確認する 5.3.1 訪問後、自己の態度を振り返る • 自己の行動に対する振り返りができる 5.3.2 報告連絡相談ができる 5.3.3 時間を守る 5.3.4 実習記録の内容がわかりやすく整理され、提出期限が守れる 5.3.5 調整ができる
---	---	---

退院支援室・地域連携室実習

1. 実習時間(7.5時間)

現地オリエンテーション：1時間

臨地実習：6.5時間 8:30～16:00 集合時間：8時10分(相澤東は8時に出入口開錠)

2. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 継続的に医療が提供され、患者・家族が望む生活を送れるために退院調整における看護師の役割を理解する	1.1 退院支援における看護師の役割が理解できる 1.2 退院調整のプロセスがわかる 1.3 退院調整をする際に、看護師に求められる能力がわかる	1.1.1 退院支援室における概要や役割について説明を受ける ・事前学習を行い、実際と比較して理解を深める 1.2.1 退院調整の流れについて説明を受ける 1.2.2 退院調整をしていく上で必要な情報は何かを考える 1.2.3 実際の業務を見学する ・業務を見学する中で、疑問や確認したい点があれば積極的に質問する 1.3.1 どのような知識や技術、能力が必要か聞く
2. 継続的に医療が提供され、患者・家族が望む生活を送れるために地域連携室がどのような役割を果たしているか考えることができる	2.1 地域連携室の役割が理解できる 2.2 地域連携室にいる職種と各職種の役割がわかる 2.3 地域連携室が関わる対象者がわかる	2.1.1 地域連携室における概要や役割について説明を受ける ・事前学習を行い、実際と比較して理解を深める 2.1.2 実際の業務を見学する ・業務を見学する中で、疑問や確認したい点があれば積極的に質問する 2.2.1 地域連携室に所属する職種について説明を受ける 2.3.1 どのような患者が対象であるか説明を受ける 2.3.2 患者および家族と関わる場面を見学する ・事前学習を行い、実際と比較して理解を深める。気になった点については確認をする
3. 多職種連携の必要性や連携の仕方がわかる	3.1 患者・家族が望む生活を送れるために連携をとる職種や関係機関がわかる	3.1.1 連携をとる職種の選択をどのように行っているのか説明や見学を通して知る ・他職種の役割や連携の仕方について事前学習を行い、実際の見学を通して学びを深める 3.1.2 連携をとるうえで心掛けていることを聞く
4. 在宅医療チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる	4.1 保健医療福祉チームの一員として行動ができる 4.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 4.3 学生として責任ある態度で取り組める	4.1.1 自己の役割を考え報告、連絡、相談ができる 4.2.1 知り得た情報は必要な場での共有とする 4.2.2 相手を尊重した言葉遣いをする 4.3.1 時間や期限を厳守する 4.3.2 健康に留意し実習に臨む 4.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない

透析センター実習

1. 実習時間(5.5時間)

8:30～15:00 集合時間:8時10分 集合場所:藤森病院 正面入り口

2. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 透析センターにおける看護活動の実際を知る	1.1 透析時の看護が理解できる 1.2 透析センターにおける看護職の役割を考えたることができる	1.1.1 透析センターにおける概要、透析時の看護について事前学習を行う 1.1.2 透析の実際を見学・一部実施する ・指導者の指示のもと、患者の状態に合わせた援助を実施できる部分は積極的にさせてもらう ＊患者の状態観察 1.2.1 透析センターにおける看護職の役割を考察する
2. 透析療法を必要とする患者の実際を知る	2.1 患者の健康管理のニーズがわかる 2.2 患者の状態に合わせた態度で接することができる	2.1.1 患者とコミュニケーションをとり、ニーズを考える ・患者のニーズ ・現在の生活における工夫点 ・健康についての患者の考え ・疾患に対する受け止め方 ・今後どのような生活をしていきたいか 2.2.1 患者の状態に合わせたコミュニケーションをとる
3. 在宅医療チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる	3.1 保健医療福祉チームの一員として行動ができる 3.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 3.3 学生として責任ある態度で取り組める	3.1.1 自己の役割を考え報告、連絡、相談ができる 3.2.1 知り得た情報は必要な場での共有とする 3.2.2 相手を尊重した言葉遣いをする 3.3.1 時間や期限を厳守する 3.3.2 健康に留意し実習に臨む 3.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない

地域診療所実習

1. 実習時間(7.5時間)

8:15～16:45 (杉山) 集合時間:8時10分

8:30～17:00 (小見山) 集合時間:8時30分

2. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 地域診療所が在宅療養している人の健康を支えるためにどのような役割を果たしているか考えることができる	1.1 地域診療所における診療の実際が理解できる 1.2 在宅療養している人にとって地域診療所が果たす役割を記述できる	1.1.1 診療所における概要について事前学習を行う 1.1.2 地域診療所で行われる診察・検査・処置時の看護について事前学習を行う 1.1.3 訪問診療および往診に同行させて頂き、訪問診療時および往診の診察・家族や関連職種間の連携を見学する ・療養者の状態を観察する 1.2.1 療養者の状態に合わせた態度で接することができる 1.2.2 療養者の状態に合わせたコミュニケーションにより、療養者の受診目的を知る 1.2.3 地域診療所の果たす役割を考える
2. 地域診療所における看護職の役割を理解する	2.1 地域診療所の中で看護職の果たす役割が理解できる 2.2 診察の介助を一部実施または見学できる	2.1.1 地域診療所における看護職の役割を考察する 2.2.1 指導者の指示のもと、療養者の状態に合わせた援助を実施できる部分は積極的にさせてもらう ・健康状態の観察 ・コミュニケーション ・医療処置に伴う援助
3. 在宅医療チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる	3.1 保健医療福祉チームの一員として行動ができる 3.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 3.3 学生として責任ある態度で取り組める	3.1.1 自己の役割を考え報告、連絡、相談ができる 3.2.1 知り得た情報は必要な場での共有とする 3.2.2 相手を尊重した言葉遣いをする 3.3.1 時間や期限を厳守する 3.3.2 健康に留意し実習に臨む 3.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない

地域での暮らしを支える実習（2単位 60時間）

I. 実習目的

- 1) 疾病の予防と健康の維持の実際を知り、看護職の役割について考え支援することができる
- 2) 地域の人々の健康や生活を支えるための社会資源の実際を学ぶ

II. 実習目標

1. デイサービス実習

- 1) デイサービスセンターが地域の中でどのような役割を果たしているのか考えることができ、生活機能向上のためのレクリエーションを考え実施できる
- 2) デイサービスセンターにおける看護職の役割を理解する
- 3) 地域住民の健康や生活を支えるための関連職種間の連携について知り、看護職の役割について考えることができる
- 4) 保健医療福祉チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる

2. 地域包括支援センター実習

- 1) 地域包括ケアシステムをマネジメントしている地域包括支援センターの役割を理解する
- 2) 地域における関係機関の連携および支援活動を理解する
- 3) 保健医療福祉チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる

3. 健康センター実習

- 1) 健康センターが地域住民の健康を支えるためにどのような役割を果たしているか考えることができる
- 2) 地域住民の健康を支えるための健康センターにおける看護職の役割を理解する
- 3) 保健医療福祉チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる

4. サービス付き高齢者向け住宅実習

- 1) サービス付き高齢者向け住宅へ居宅を移行し生活している人々の実際を知る
- 2) その人らしく暮らし続けるための支援がわかる
- 3) 保健医療福祉チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる

5. 保健センター実習

- 1) 住民の健康を支えるための保健センターにおける看護活動の実際を知る
- 2) 地域住民の健康を支えるための保健センターにおける看護職の役割を理解する
- 3) 保健医療福祉チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる

III. 実習場所

1. デイサービスセンター実習

松本市社会福祉協議会 北部デイサービスセンター

2. 地域包括支援センター実習

東部地域包括支援センター・中央地域包括支援センター・中央南地域包括支援センター
中央西地域包括支援センター・南東部地域包括支援センター
南部地域包括支援センター・河西部地域包括支援センター

3. 健康センター実習

社会医療法人財団慈泉会 相澤健康センター

4. サービス付き高齢者向け住宅実習

社会医療法人財団慈泉会 サービス付き高齢者向け住宅「結」本庄、「結」つかま、ウィステリアガーデン結

5. 保健センター実習

松本市保健所 健康づくり課 中央保健センター・南部保健センター・北部保健センター

IV. 実習時間（2単位 60時間）

臨地実習 48時間

学内実習 12時間（下記参照）

実習の進め方・内容：合計60時間

内 容	時間	時期	場所	目的・内容
デイサービスセンター実習 臨地実習：3日間	7.5時間 ×3日	5月～11月	北部デイサービスセンター	デイサービスセンターで行われている援助に参加し、看護職の役割と看護活動の実際を学ぶ。また、心身機能維持、生活機能向上のための計画の立案、実施する。
学内実習	6時間	実習中	教室	グループで健康や生活を支えるための計画を立てる。
	1時間	3週目木曜	教室	実習での学びを振り返り、自己の課題を明確にする。
地域包括支援センター実習 臨地実習：1日間	7.5時間	5月～11月	各地域包括支援センター	住み慣れた地域で安心して生活するためにどのように支援活動をしているかを知る。
健康センター実習 臨地実習：1日間	7.5時間	5月～11月	相澤健康センター	健康センターで行われている看護活動の実際を見学する。
サービス付き高齢者向け住宅実習 臨地実習：1日間	7時間	5月～11月	サービス付き高齢者向け住宅「結」グループ	サービス付き高齢者向け住居で生活する人々を支える活動の実際を見学する。 サービス付き高齢者向け住宅へ居宅を移行し生活している人々の実際を知る。
保健センター実習 臨地実習：1日間	3.5時間	5月～11月	各保健センター	地域の特性、保健センターの概要及び各事業の目的を知り、実際の活動を見学する
学内学習 オリエンテーション	1.5時間	1週目火曜	教室	地域での暮らしを支える実習で何を学ぶかを共通認識し、計画的に学習を進めるために、実習の目的・目標や具体的学習内容を知る。
事前オリエンテーション	1.5時間	1週目火曜	教室	(1) 各実習場所の特性について知る。 (2) 具体的な実習予定を知り、個人目標を明確にする。
最終カンファレンス	2時間	3週目木曜	教室	実習での学びをチーム間で共有する。
計	60時間			

デイサービスセンター実習

1. 実習時間（29.5時間）

学内学習：中間6時間 まとめ1時間

臨地実習：7.5時間×3日間（8：30～17：00 集合時間8：20）

2. 実習内容

心身機能維持、生活機能向上のためのレクリエーションを計画、立案、実施する

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. デイサービスセンターが地域の中でどのような役割を果たしているのか考えることができ、生活機能向上のためのレクリエーションを考え実施できる	1.1 デイサービスセンターで行われている援助の実際が理解できる	1.1.1 デイサービスセンターにおける概要について事前学習を行う ・ デイサービスの目的、内容、方法、参加者の利用目的 1.1.2 オリエンテーションの説明を聞く ・ レクリエーションの目的を知る
	1.2 利用者の心身機能、生活機能が理解できる	1.2.1 利用者とのコミュニケーション、関わりからニーズを知る
	1.3 利用者にとって必要な支援を考え、実施できる	1.3.1 利用者を対象にレクリエーションの計画を立案し、実施・評価する 1.3.2 利用者の状況やデイサービスの環境を把握し、安全に注意し実施する ・ 計画の内容は指導者、教員の指導を受ける

2. デイサービスセンターにおける看護職の役割を理解する	2.1 デイサービスセンターの中で看護職の果たす役割が理解できる 2.2 利用者の健康を支える援助や生活援助を指導者とともに実施できる	2.1.1 デイサービスセンターにおける看護職の役割を考える 2.2.1 見学しながら、できるところは積極的に関わっていく - 看護・生活援助の実施と評価 - 健康状態の観察 - コミュニケーション - 生活援助 - 医療処置に伴う援助 - レクリエーション - 記録・報告 - 利用者との関わり
3. 地域住民の健康や生活を支えるための関連職種間の連携について知り、看護職の役割について考えることができる	3.1 関連職種間の連携方法について考えることができる	3.1.1 スタッフの職種、役割、連携方法、社会資源をふまえ、看護職の役割について考察できる
4. 保健医療福祉チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる	4.1 保健医療福祉チームの一員として行動ができる 4.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 4.3 学生として責任ある態度で取り組める 4.4 チームメンバーと協力して実習に取り組める	4.1.1 自己の役割を考え報告、連絡、相談ができる 4.2.1 知り得た情報は必要な場での共有とする 4.2.2 相手を尊重した言葉遣いをする 4.3.1 時間や期限を厳守する 4.3.2 健康に留意し実習に臨む 4.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない 4.4.1 チーム活動、レクリエーションに積極的に参加し学びを深める 4.4.2 チームメンバーに関心を持ち行動する

地域包括支援センター実習

1. 実習時間(7.5時間)

8:30～17:00 (集合時間 8:20)

2. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 地域包括ケアシステムをマネジメントしている地域包括支援センターの役割を理解する	1.1 地域包括支援センターの役割が理解できる	1.1.1 地域包括支援センターの役割について事前学習を行う - 地域包括支援センターの目的 1.1.2 オリエンテーション時の説明から、地域活動について学ぶ - 事業内容 - 地域での活動の特性 1.1.3 実習終了後、地域包括支援センターの役割を考える

2. 地域における関係機関の連携および支援活動を理解する	2.1 地域で生活する人々に対する看護職のケアマネジメントの実際を見学する 2.2 地域包括支援センターにかかわる対象者がわかる 2.3 連携をとる職種や関係機関がわかる	2.1.1 地域包括支援センターにおける看護職の役割を考える 2.1.2 人々とのかかわる場面を見学する 2.2.1 どのような人々が対象であるか、説明を受ける ・利用者の状況 ・ニーズと課題 2.3.1 地域ケア会議を見学して多職種の連携を知る 2.3.2 連携をとる職種の選択をどのように行っているのか説明や見学を通して知る 2.3.2 連携をとるうえで心がけていることを聞く
3. 保健医療福祉チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる	3.1 保健医療福祉チームの一員として行動ができる 3.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 3.3 学生として責任ある態度で取り組める	3.1.1 自己の役割を考え報告、連絡、相談ができる 3.2.1 知り得た情報は必要な場での共有とする 3.2.2 相手を尊重した言葉遣いをする 3.3.1 時間や期限を厳守する 3.3.2 健康に留意し実習に臨む 3.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない

健康センター実習

1. 実習時間(7.5時間)

8:30～17:00 (集合時間:8時10分)

2. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 健康センターが地域住民の健康を支えるためにどのような役割を果たしているか考えることができる	1.1 健康センターの役割が理解できる 1.2 利用者の健康ニーズがわかる	1.1.1 健康センターにおける概要について事前学習を行う 1.1.2 健康センターにおける概要や役割について説明をうける ・健康センターの目的 ・利用者 1.1.3 健康センターで行われる検査・診察時の看護について事前学習を行う 1.1.4 健康センターの果たす役割を考える 1.2.1 利用者の発言から考える 1.2.2 コミュニケーションをとり健康ニーズを知る
2. 地域住民の健康を支えるための健康センターにおける看護職の役割を理解する	2.1 健康センターの中で看護職の果たす役割が理解できる 2.2 保健指導の見学を通して、地域住民の健康が保持増進するための支援がわかる 2.3 利用者を尊重する態度で接することができる	2.1.1 さまざまな場面の見学を通し、健康センターにおける看護職の役割を考察する 2.2.1 保健指導の実際を見学する 2.2.2 利用者の理解を深めるためにどのような工夫をしているか学ぶ 2.3.1 利用者や環境に応じた接し方を判断し行動する

3. 保健医療福祉チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる	3.1 保健医療福祉チームの一員として行動ができる	3.1.1 自己の役割を考え報告、連絡、相談ができる
	3.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる	3.2.1 知り得た情報は必要な場での共有とする 3.2.2 相手を尊重した言葉遣いをする
	3.3 学生として責任ある態度で取り組める	3.3.1 時間や期限を厳守する 3.3.2 健康に留意し実習に臨む 3.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない

サービス付き高齢者向け住宅実習

1. 実習時間(7時間)

9:00～17:00 (集合時間:8時45分 ウィステリアガーデン結)

2. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. サービス付き高齢者住宅へ居宅を移行し生活している人々の実際を知る	1.1 入居している人々の背景がわかる	1.1.1 入居者の状況について説明をうける ・年齢 ・介護レベル ・入居の理由
	1.2 入居している人々の生活へのニーズがわかる	1.2.1 入居者の一日の流れの説明を職員から受ける 1.2.2 入居者とコミュニケーションをとり、ニーズを考える ・入居者のニーズ ・生活における工夫点 ・こでの生活について
2. その人らしく暮らし続けるための支援がわかる	2.1 施設にいる職種と各職種の役割がわかる	2.1.1 所属する職種について説明を受ける ・事前学習を行い、実際と比較して理解を深める
	2.2 入居者のニーズに添うための生活支援がわかる	2.2.1 入居者と関わる場面を見学する 2.2.2 他職種との協働の場面を見学する ・協働していく上で工夫している点
3. 保健医療福祉チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる	3.1 保健医療福祉チームの一員として行動ができる	3.1.1 自己の役割を考え報告、連絡、相談ができる
	3.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる	3.2.1 知り得た情報は必要な場での共有とする 3.2.2 相手を尊重した言葉遣いをする
	3.3 学生として責任ある態度で取り組める	3.3.1 時間や期限を厳守する 3.3.2 健康に留意し実習に臨む 3.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない

保健センター実習

1. 実習時間(3.5時間)

12:30～16:00 (集合時間:12時25分 各保健センター)

2. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 地域住民の健康を支えるための保健センターにおける看護活動の実際を知る	1.1 地域看護活動の特性が理解できる 1.2 保健センターの役割が理解できる 1.3 保健センターの事業の目的が理解できる	1.1.1 オリエンテーション時の説明から、地域看護活動について学ぶ ・保健センターの目的、事業内容 ・地域看護活動の特性 ・地域の特徴と健康 ・地域看護の技法(健康相談、健康診査、健康教育) 1.2.1 保健センターの役割について事前学習を行う 1.2.2 実習終了後、保健センターの役割を考える 1.3.1 実習に参加する事業の目的、内容、方法について資料を基に事前学習をする
2. 地域住民の健康を支えるための保健センターにおける看護職の役割を理解する	2.1 各事業の中で看護職の果たす役割が理解できる 2.2 地域住民の健康の保持増進のための支援・援助を見学もしくは指導者とともに一部実施できる 2.3 事業に参加し、地域住民の健康管理のニーズがわかる 2.4 利用者を尊重する態度で接する事ができる	2.1.1 各事業における看護職の役割を考える ・利用者の状況 ・ニーズと課題 ・家族への看護 2.1.2 カンファレンス等に参加できる時は、積極的に参加する 2.2.1 見学しながら、できるところは積極的に関わっていく 2.3.1 事業に参加し、利用者のニーズを知る ・利用者が待っている時間などにコミュニケーションをもつ 2.4.1 妊婦から小児、老年者まで様々な年齢層の人との接し方を考えて行動する
3. 保健医療福祉チームの一員である看護学生として、責任ある態度や行動がとれる	3.1 保健医療福祉チームの一員として行動ができる 3.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 3.3 学生として責任ある態度で取り組める	3.1.1 自己の役割を考え報告、連絡、相談ができる 3.2.1 知り得た情報は必要な場での共有とする 3.2.2 相手を尊重した言葉遣いをする 3.3.1 時間や期限を厳守する 3.3.2 健康に留意し実習に臨む 3.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない

高齢者の暮らしを知る実習（1単位 30時間）

1. 実習目的

地域高齢者の生きがいづくり、健康づくり施策の概要と実際の活動への理解を深め、地域で生活する高齢者の活動の場に出向き共に活動する体験を通して、自身の社会的視野を広げ老年看護観を養う

2. 実習目標

- 1) 福祉ひろばや認知症カフェの役割が説明できる
- 2) 地域で暮らす高齢者に合わせたコミュニケーションが図れる
- 3) 地域で暮らす高齢者とのふれあいから身体的・心理的特徴と持てる力を理解できる
- 4) 地域で暮らす高齢者を取り巻く環境における課題を考えることができる
- 5) 実習を通して考えた高齢者観や老年看護観を表現できる
- 6) 看護学生として責任ある態度や行動がとれる

3. 実習場所

松本市福祉ひろば 各地区

4. 実習時間（1単位 30時間 1時間＝60分）

臨地実習：福祉ひろば 3時間×2日間

学内実習 22時間（下記参照）

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
オリエンテーション	2時間	教室	・実習目的・目標や具体的学習内容を知り、事前学習の計画を進める ・個人目標、チーム目標を決める
事前学習	6時間	講堂	・福祉政策課の方から福祉ひろばの目的や概要に関する講義 ・事前学習の追加 ・行事参加する福祉ひろばの地域調査をチームで行う
事前学習	6時間	講堂	・認知症カフェのコーディネーターから事業の目的や活動の実際に関する講義 ・事前学習の追加 ・行事参加時に留意、工夫すること、インタビュー内容や役割分担などチームで話し合う
実習まとめの準備	2時間×2日	教室	・チームで調査した内容の整理 ・発表資料（各福祉ひろばや参加者の特徴や、高齢者が地域で健康的に暮らすとはどういうことか、どんな課題があるのかなど気づきや学びに関してまとめる）作成
まとめ発表	6時間	講堂	・発表資料の準備 ・発表

5. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 福祉ひろばや認知症カフェの役割が説明できる	1.1 福祉ひろばや認知症カフェの概要を記述できる 1.2 福祉ひろばの実際を知ることができる	1.1.1 地域で生活する高齢者を支えるための松本市の取り組みを事前学習する 1.1.2 福祉ひろばや認知症カフェの目的、内容の事前学習をする 1.1.3 コーディネーターの講義を聴講し、事前学習の内容理解を深める 1.2.1 コーディネーターから福祉ひろば広場の目的、内容、参加者の特徴の説明を受ける 1.2.2 福祉ひろばに参加している高齢者の状態に合わせ、行事に参加する 1.2.3 コーディネーターが高齢者にどのように関わっているか観察する 1.2.4 行事の参加から、目的や活動の意義について考えを記述する
2. 地域で暮らす高齢者にあわせたコミュニケーションを図れる	2.1 高齢者とのコミュニケーションの技法を考えられる 2.2 高齢者の特徴を理解し、相手に合わせたコミュニケーションをとることができる	2.1.1 聴覚機能、視覚機能、精神機能等の加齢変化に関し復習し、コミュニケーションの工夫点を考える 2.1.2 高齢者の生きてきた時代背景や価値観への理解を深め、コミュニケーション上の留意点を考える 2.2.1 聴覚機能、視覚機能、精神機能等を考えながらコミュニケーションをとる 2.2.2 高齢者に対する態度や言葉使いに留意し、積極的に関わる 2.2.3 実習中に気になった場面を振り返り、リフレクション用紙を用いて、関わりを振り返る
3. 地域で暮らす高齢者とのふれあいから身体的・精神的・社会的特徴および持てる力を理解できる	3.1 加齢に伴う身体面、精神面、社会面の特徴を学習できる 3.2 地域高齢者と共に活動に参加し、高齢者の特徴や強みを見出すことができる	3.1.1 教科書や講義資料などから、三側面の事前学習をする 3.1.2 参加する活動の内容も踏まえ、活動参加時に注意する点、一緒に楽しむために工夫する点について考える 3.2.1 活動の様子やインタビューから捉えた身体的・精神的・社会的特徴および持てる力を記述する 3.2.2 チームで実習を振り返り、学習内容や活動参加やインタビューの結果をまとめ、発表する
4. 地域で生活する高齢者取り巻く環境における課題を考えることができる	4.1 地域で生活する高齢者の健康課題を記述できる	4.1.1 参加する福祉ひろばの地区の周辺（スーパーや病院、公的機関など）を地図で調べる 4.1.2 福祉ひろばに参加する際に高齢者に聞き取りを行いたい内容をチームで検討する 例：健康に対する思い（気にしていることや心配事）、健康のためにしていること、普段の暮らしぶりや困り事など 4.1.3 福祉ひろばの関係者から許可を得て、参加している高齢者にインタビューする 4.1.4 福祉ひろばや認知症カフェのコーディネーターによる講義内容やインタビューの結果から、地域高齢者と取り巻く環境における課題を考える 4.1.5 考えた結果をチームでまとめ、発表する

5. 実習を通して考えた高齢者観や老年看護観を表現できる	5.1 高齢者や老年看護に関して深く考え、自身の意見を記述できる	5.1.1 実習体験から、高齢者になったときに、どのように地域で暮らしたいか(サクセスフルエイジング)、理想像を考え記述する 5.1.2 老年看護に携わる者として、高齢者に関わる姿勢や態度としてどうありたいか、理想像を考え記述する
6. 看護学生として責任ある態度や行動がとれる	6.1 チームの一員として責任ある行動や倫理的な態度がわかり行動できる 6.2 主体的に学習できる	6.1.1 自己の役割を考え行動する チームメンバーと適切なコミュニケーションをとる チームメンバーの動きに配慮し状況に応じた行動をとり協力する 知り得た事柄はチームで共有する 絶えず相手の立場で考える チーム活動の場面では積極的に参加する 自分の考えを相手にわかるように伝える 6.1.2 相手を尊重した態度で行動する 相手の意見を素直に聴き、話の内容の意味を考える 6.1.3 チームで必要な報告・連絡・相談・調整を心掛け行動する 自分ができることや他者に依頼することを判断し、適切な人に適切なタイミングで報告・連絡・相談・調整をする 6.1.4 看護学生として責任を持って行動する TPOに合わせた言葉遣い、身だしなみ、挨拶をする 記録物の管理、個人情報の管理に留意する 臨地で説明された規則を守る 時間や約束事を厳守する 他者への影響を考えて心身の健康状態を適切に行いより良い状態で実習に臨む <学生便覧> 参照 臨地実習に関する具体的事項 松本看護専門学校の倫理 6.2.1 実習目標を理解し目標を達成するための目標をあげる 6.2.2 目標を達成するために必要な学習(知識・看護技術)計画を立て学習する 6.2.3 わからないことはそのままにせず、調べる・他者に聞くなど探求行動をとる 他者の意見や助言を謙虚な姿勢で聴き、助言を活かし学習する

成人・老年の療養生活を支える実習（2単位 90時間）

I. 実習目的

- 1) 老年期にある対象者との関わりを通し、その人らしく生き生きと暮らす看護が実践できる能力を養う
- 2) 成人期・老年期にある健康障害をもつ患者を理解し、生活の維持や向上を目指した看護が実践できる能力を養う

II. 実習目標

- 1) 認知症の高齢者、認知機能が低下している高齢者の健康を保持増進させるための支援がわかる
- 2) 入所者とのコミュニケーションのあり方を考えることができる
- 3) 健康障害のある患者を発達段階・健康段階を踏まえて捉えることができる
- 4) 健康障害のある患者の生活行動の維持や向上を目指した援助を実施することができる
- 5) 保健医療チームの一員として責任ある態度や行動がとれる

III. 実習場所

介護老人施設

社会福祉法人 協立福祉会 老人保健施設 あずみの里
 社会医療法人 城西医療財団 老人保健施設 安曇野メディア
 一般社団法人 松本市医師会 松本市城山介護老人保健施設
 社会福祉法人 介護老人保健施設 ハーモニー

病院

社会医療法人財団慈泉会 相澤東病院
 日本赤十字社 安曇野赤十字病院
 国立病院機構 まつもと医療センター

IV. 実習時間（2単位 90時間）

臨地実習時間 7.75時間（8：15～17：00）×8日＝62時間

学内実習 7時間×4日＝28時間

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
オリエンテーション	2時間	教室	• 実習に必要な学習を計画的に進めるために、実習の目的・目標や具体的学習内容を知る
事前学内	5時間×1日間 7時間×1日間	教室 実習室	• 実習病院の特性や留意点を知る • 個人面接 • チーム目標の設定 • 受け持ち患者を決定し、患者把握や看護実践のために必要な疾患・治療・検査・看護についての事前学習をする • 事前に得た患者情報から必要な看護ケアについて学習・演習する
学びの共有	2時間	教室	• 実習を通じて「成人・老年期にある患者の生活の維持や向上を目指す看護」について考える
思考の整理	5時間	教室	• 記録の整理
実習まとめ	7時間	教室	• 個人面接 • チーム目標の振り返り • 自己の課題を明確にする

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 認知症の高齢者、認知機能が低下している高齢者の健康を保持増進させるための支援がわかる	1.1 介護老人保健施設の役割を考えることができる 1.2 入所者のもてる機能を活かした生活支援について考えることができる	1.1.1 介護老人保健施設の役割の事前学習をする 1.1.2 オリエンテーションの説明を受ける - 施設の理念 - 入所者の特徴や背景 - 関係職種とその役割 - 日課、構造上の特徴 - 安全性の工夫、緊急時の対応 1.1.3 事前学習と比較し、学びを記録用紙に記載する 1.2.1 認知機能評価方法、認知症について事前学習する 1.2.2 職員の指導を受けながら日常生活援助やアクティビティを見学、参加する 1.2.3 対象者の反応を観察する 1.2.4 対象者の有する機能を生かした生活支援について考える
2. 入所者とのコミュニケーションのあり方を考えることができる	2.1 老化に伴う感覚機能や認知機能に応じたコミュニケーションをはかることができる	2.1.1 認知症高齢者のコミュニケーションの事前学習をする 2.1.2 職員と入所者の関わり方を観察する 2.1.3 入所者の時代背景や生活背景を踏まえ、生きがいや価値感を考える 2.1.4 職員から指導を受け反応を確認しながらコミュニケーションを工夫する 2.1.5 高齢者を尊重した態度・言葉遣いで関わる 2.1.6 リフレクション用紙を用いて自己の関わりの意味を考える
3. 健康障害のある患者を発達段階・健康段階を踏まえて捉えることができる	3.1 発達段階・健康段階を踏まえて患者の健康障害が説明できる 3.2 患者の健康障害が生活に及ぼす影響を考え看護問題を明確にできる 3.3 患者の全体像を捉えることができる	3.1.1 患者の現在の病態・症状、治療、入院までの経過、入院から現在までの経過をライフサイクルと関連させて捉える 3.1.2 患者の健康障害又は加齢による変化や特徴を把握し、患者の強みを捉える（身体機能、認知機能、残存能力、意思・意欲など） 3.1.3 患者の健康障害の部位や程度、自覚症状を捉える 3.1.4 患者のライフステージに伴う精神面の変化や特徴を捉える 3.1.5 患者の家族構成、生活史、生活環境、生活習慣、社会参加の状況など社会面を捉える 3.1.6 社会的背景が現在の生活や、今後の生活に及ぼす影響を捉える 3.2.1 患者の現在の一日の過ごし方、生活環境を理解する 3.2.2 行われている治療・処置の目的、方法を理解する 3.2.3 受け持ち患者の日常生活の自立状況を理解する 3.2.4 入院前と入院後の日常生活行動を比較し、健康障害・加齢変化・入院治療が生活に及ぼす影響を捉える 3.3.1 患者の3側面（4側面）の情報の関連性を捉えて全体像と情報関連図を記載する 3.3.2 根拠に基づくアセスメントから健康上の課題を明確にする 3.3.3

4. 健康障害のある患者の生活行動の維持や向上を目指した援助が実施できる	4.1 患者の状況に応じた看護計画が立案できる 4.2 患者の現在の状態を正しく観察できる 4.3 患者の状態に応じた援助が安全に実施できる 4.4 実施を評価修正し、患者の生活行動の維持や向上を目指した援助ができる	4.1.1 アセスメントから患者の個性や強みを生かし看護計画を立案する 4.1.2 患者の安全・安楽・自立を考慮した看護計画が立案できる 4.1.3 健康段階別の看護が考えられる 〈回復期〉 ・日常生活動作の拡大に向けた計画 〈慢性期〉 ・患者に必要なセルフマネジメント支援 ・症状を悪化させない援助の工夫 4.2.1 患者の症状を観察できる 4.2.2 現在忘れていた症状から、二次的合併症を含めた観察ができる 4.2.3 観察した状態をアセスメントできる 4.3.1 実施前に、指導者に相談し、生活行動が維持・拡大できるケアを実施する ・技術経験録で到達レベルを確認しつつ実施する 4.3.2 その人、その時の状況を判断し、創意工夫をして実施できる 4.4.1 実施に対する評価修正ができる ・本日の目標に対する評価を行い看護計画の追加・修正をする 4.4.2 実施・評価・修正を行いながら患者に状況に応じた個性のある看護計画に修正する
5. 保健医療チームの一員として責任ある態度や行動がとれる	5.1 保健チームの一員として行動ができる 5.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 5.3 患者の状態に応じた援助が安全に実施できる 5.4 実施を評価修正し、患者の生活行動の維持や向上を目指した援助ができる	5.1.1 看護チームの一員として自己の役割を考え報告・連絡・相談する 5.1.2 知り得た情報を必要な職種と共有する 5.2.1 知り得た情報は保健医療チームで共有することを患者に説明する 5.2.2 患者・家族に関心を持ち、思いを傾聴する 5.2.3 相手を尊重した言葉遣いをする 5.2.4 今必要な看護援助に対し、持ち合わせている知識・技術で精一杯看護する 5.2.5 実施した看護を通し、自己の態度を振り返る ・患者・家族との対応 ・指導者及びスタッフとの対応 5.3.1 時間や期限を厳守する 5.3.2 健康に留意し、実習に臨む 5.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない 5.3.4 自己の課題を知り、解決に向け努力できる 5.3.5 実習終了時に看護の実際を考察する 5.4.1 チーム活動・カンファレンスに積極的に参加し学びを深める 5.4.2 チームメンバーに関心を持ち行動する 5.4.3 指導者・教員からの指導内容をチーム全体で共有する

成人・老年の健康と生活を支える実習（2単位 90時間）

I. 実習目的

成人・老年期にある患者を生活者として捉え、どのような状態であってもその人らしく生き活きと暮らすための看護を実践できる基礎的能力を養う

II. 実習目標

- 1) 健康障害のある患者に合ったセルフマネジメント・セルフケア再獲得について考えることができる
- 2) 健康障害のある患者の状況に応じた看護を実践することができる
- 3) 保健医療チームの一員として責任ある態度や行動がとれる

III. 実習場所

社会医療法人財団慈泉会 相澤東病院
独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター

IV. 実習時間（2単位 90時間）

病棟実習時間 7.75時間(8:15～17:00)×8日=62時間

学内実習 7時間×4日=28時間

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
オリエンテーション	2時間	教室	• 実習に必要な学習を計画的に進めるために、実習の目的・目標や具体的学習内容を知る
事前学内	5時間	教室 実習室	• 実習病院の特性や留意点を知る • 受け持ち患者を決定し、患者把握や看護実践のために必要な疾患・治療・検査・看護についての事前学習をする • 事前に得た患者情報から必要な看護ケアについて学習・演習する
学内学習	2週目7時間	教室	• 看護計画の立案 • 記録の整理
学びの共有	3週目2時間	教室	• 実習を通じて「成人・老年期にある患者が、どのような状態であってもその人らしく生き活きと暮らすための看護」について考える
思考の整理	3週目5時間	教室	• 記録の整理
実習まとめ	3週目7時間	教室	• 個人面接 • チーム目標の振り返り • 自己の課題を明確にする

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 健康障害のある患者に合ったセルフマネジメント・セルフケア再獲得について考えることができる	1.1 患者の健康障害が説明できる 1.2 患者の健康障害が生活に及ぼす影響を考え看護問題を明確にできる 1.3 患者の全体像を捉えることができる	1.1.1 受け持ち患者に必要な事前学習をする（一般的な成人期・老年期の特徴、健康段階別看護、健康障害の部位・症状、治療・検査、病状別看護） 1.1.2 患者の現在の病態・症状、治療、入院までの経緯をライフサイクルと関連し、記述する 1.1.3 患者の健康障害の部位や程度、自覚症状、現在の治療・検査の情報から患者の状態をアセスメントする 1.1.4 患者の状態を観察し現在の症状から、二次的合併症を含めた観察をする 1.1.5 観察した状態をアセスメントする 1.2.1 現在の病態を理解し、それが現在の生活にどのように影響しているかアセスメントする - 入院から現在までの症状の変化を治療と関連させてアセスメント - 症状と生活行動を関連させてアセスメント - 病態と生活行動を関連させ、起こりうるリスクをアセスメントする - セルフマネジメント、セルフケア再獲得の視点でアセスメントする 1.2.2 看護の問題を明確にする 1.3.1 健康障害をどのように受け止めているかアセスメントする 1.3.2 患者及び家族が健康障害にどのような思いを持っているか、カルテやコミュニケーション、看護師や他職種から情報収集する 1.3.3 生活背景を関連させ、機能障害が患者の社会生活にどのような影響を及ぼしているか考える - 退院後の社会復帰（家庭内の役割、社会への参加）の状況を考える 1.3.4 患者の困りごとや望みを明確化する 1.3.5 患者の強みを活かす 1.3.6 1.1～1.3の患者の3側面（4側面）の情報を関連させ、文章化もしくは情報関連図を用いて統合する
2. 健康障害のある患者の状況に応じた看護を実践することができる	2.1 患者の状況に応じた看護計画が立案できる	2.1.1 アセスメントから患者の個性や強みを生かし看護計画を立案する 2.1.2 患者の安全・安楽・自立を考慮した看護計画が立案できる 2.1.3 健康段階別の看護が考えられる 〈回復期〉 日常生活動作の拡大に向けた計画 〈慢性期〉 患者に必要なセルフマネジメント支援 症状を悪化させない援助の工夫 〈終末期〉 全人的苦痛がどのようなものか具体的に知り、苦痛を緩和する 基本的ニーズの充足患者が抱えるようなものか具体的に知る 2.1.4 患者及び家族が目指す方向性（ゴール）を把握する 2.1.5 退院後の生活を考えた看護が考えられる

	2.2 患者の状況に応じた援助が安全・安楽に実施できる 2.3 患者の状況に応じて、患者がより健康な生活を送れるよう考えた看護が実施できる	〈回復期〉 2.2.1 ・日常生活動作の拡大に向けた援助が実施できる 〈慢性期〉 2.2.2 ・患者と一緒にセルフマネジメントを考える 2.2.3 ・自己管理脳力を高めるための援助が実施できる 〈終末期〉 2.2.4 ・患者の基本的ニーズを充足させるための援助を実施する（食事、排泄行動、清潔、睡眠、休息、環境、気分転換など） 2.2.5 ・苦痛を緩和するための援助を実施する 2.2.6 ・患者及び家族のQOLを理解し患者の臨む生活が送れるように援助を実施する 2.3.1 本日の目標に対する評価を行い看護計画の追加・修正をする 2.3.2 実施・評価・修正を行いながら患者に状況に応じた個別性のある看護計画に修正する 2.3.3 患者がより健康な生活を送れるよう考える 2.3.4 その人、その時の状況を判断し、創意工夫をして実施できる 2.3.5 実習体験や学びの共有をとおり、成人・老年期にある患者が、どのような状態であってもその人らしく生き生きと暮らすための看護について考え、学びを記述する
3. 保健医療チームの一員として責任ある態度や行動がとれる	3.1 保健チームの一員として行動ができる 3.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 3.3 学生として責任ある態度で取り組める 3.4 チームメンバーと協力して実習に取り組める	3.1.1 看護チームの一員として自己の役割を考え報告・連絡・相談する 3.1.2 知り得た情報を必要な職種と共有する 3.2.1 知り得た情報は保健医療チームで共有することを患者に説明する 3.2.2 患者・家族に関心を持ち、思いを傾聴する 3.2.3 相手を尊重した言葉遣いをする 3.2.4 今必要な看護援助に対し、持ち合わせている知識・技術で精一杯看護する 3.2.5 実施した看護を通し、自己の態度を振り返る ・患者・家族との対応 ・指導者及びスタッフとの対応 3.3.1 時間や期限を厳守する 3.3.2 健康に留意し、実習に臨む 3.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない 3.3.4 自己の課題を知り、解決に向け努力できる 3.3.5 実習終了時に看護の実際を考察する 3.4.1 チーム活動・カンファレンスに積極的に参加し学びを深める 3.4.2 チームメンバーに関心を持ち行動する 3.4.3 指導者・教員からの指導内容をチーム全体で共有する

成人・老年の周手術期実習（2単位 60時間）

I. 実習目的

周手術期にある患者を理解し、患者の状態に応じた看護が考えられる

II. 実習目標

- 1) 周手術期にある患者・家族の特徴を理解することができる
- 2) 麻酔および手術による生体への影響を理解することができる
- 3) 術直後の生体反応および術後合併症予防の看護を理解し実践することができる
- 4) 保健医療チームの一員として責任ある態度や行動をとることができる

III. 実習場所

1. 病棟実習

社会医療法人財団慈泉会 相澤病院 4A病棟

独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター 東4階病棟

日本赤十字社 安曇野赤十字病院

IV. 実習時間 2単位（60時間）

病棟実習 1日7時間（8:30～16:30 休憩1時間）×6日＝42時間

学内実習 18時間（下記参照）

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
オリエンテーション	1時間	教室	• 実習に必要な学習を計画的に進めるために、実習の目的・目標や具体的学習内容を知る
事前学内	5.5時間 （×1日）	教室	• 実習病院の特性や留意点を知る • 個人面接 • チーム目標の設定 • 実習に必要な事前学習（動画視聴含む）
学びの共有	6.5時間 （×1日）	教室	• 実習を通じて「周手術期にある患者の状態に応じた看護」について考える 午前：グループで発表準備 午後：全体発表
実習まとめ	5時間 （×1日）	教室	• 個人面接 • チーム目標の振り返り

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 周手術期にある患者・家族の特徴を理解することができる	1.1 手術が患者に及ぼす身体的影響について理解できる 1.2 手術が患者・家族に及ぼす心理的、社会的影響について理解できる 1.3 周手術期に必要とされる看護について考えることができる	1.1.1 一般的な成人期の身体的特徴、疾患に関連した臓器、部位の解剖生理、疾患の病態、検査、治療の学習をする 1.1.2 一般的な手術後の経過（ムーアの分類・創傷治癒過程など）、術後合併症について学習をする 1.2.1 疾患や手術に対する受け止めや不安を知る 1.2.2 手術による生活への影響を知る 1.2.3 ボディイメージの変化に伴うストレスがわかる 1.2.4 手術による発達課題、社会的役割遂行状況への影響を考える 1.2.5 退院後の生活を見据えて患者と家族に必要な看護を考えることができる 1.3.1 手術前・中・後の看護について学習をする 1.3.2 患者の状態に応じた看護の意味を考えることができる
2. 麻酔および手術による生体への影響を理解することができる	2.1 麻酔による生体への影響が理解できる 2.2 手術中に起こりやすい合併症と予防の看護が理解できる 2.3 麻酔覚醒時の看護の実践が理解できる	2.1.1 患者に実施される麻酔の種類と特徴、副作用について事前学習する ・麻酔方法や使用薬剤 ・麻酔による呼吸抑制・循環動態の変動 2.2.1 手術体位の固定の援助と褥瘡予防、神経障害予防について事前学習する ・手術体位と体位の固定 ・体位による褥瘡好発部位 ・起こりやすい神経障害とその予防 2.2.2 深部静脈血栓症予防の援助を見学し術後必要な観察や看護を考える 2.2.3 術中の体温管理と低体温予防について知る ・体温モニタリング、保温方法などカルテおよび申し送りから情報を収集する 2.2.4 術中の呼吸・循環管理について知る ・呼吸・循環モニタリング ・出血量・尿量測定 ・輸液・輸血の管理 ・カルテおよび申し送りから情報を収集する 2.3.1 抜管前後の観察と実施されている援助を知る ・カルテから情報を収集する 2.3.2 帰室までに行われている看護を知る ・カルテおよび申し送りから情報を収集する

3. 術直後の生体反応および術後合併症とHUC / ICUで実施される看護を理解することができる	3.1 術後の全身状態の変化が理解できる 3.2 術後の回復過程に応じた看護の実践が理解できる	3.1.1 術後合併症の発現時期に応じた全身状態の観察を見学し、患者に必要な観察や看護を考える ・看護師とともに行動し観察する ・回診の見学・介助につき、患者の状態・創の変化を観察する 3.1.2 病態と生体侵襲を関連させ身体に及ぼす影響について学ぶ ・切開部位・出血量・病変部位の摘出方法と範囲、ドレーンの挿入部位 ・神経麻痺・圧迫・褥瘡・呼吸抑制・循環動態の変動 ・消化器機能への影響 3.2.1 術後合併症予防・早期離床に向けた援助を知る 早期離床の必要性を学ぶ 看護師とともに援助を実践する 3.2.2 医療機器やルート類の管理について知る ・人工呼吸器や中心静脈カテーテルの必要性や管理上の留意点について事前学習する 3.2.3 患者と家族の不安や心理的ストレスを緩和するために必要な看護を考える
4. 保健医療チームの一員として責任ある態度や行動をとることができる	4.1 保健医療チームの一員として行動ができる 4.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 4.3 学生として責任ある態度で取り組める 4.4 チームメンバーと協力して実習に取り組める	4.1.1 看護チームの一員として自己の役割を考え報告・連絡・相談する 4.1.2 知り得た情報を必要な職種と共有する 4.2.1 知り得た情報は保健医療チームで共有することを患者に説明する 4.2.2 患者・家族に関心を持ち、思いを傾聴する 4.2.3 相手を尊重した言葉遣いをする 4.2.4 今必要な看護援助に対し、持ち合わせている知識・技術で精一杯看護する 4.2.5 実施した看護を通し、自己の態度を振りかえる ・患者・家族との対応 ・指導者及びスタッフとの対応 4.3.1 時間や期限を厳守する 4.3.2 健康に留意し、実習に臨む 4.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない 4.3.4 自己の課題を知り、解決に向け努力できる 4.3.5 実習終了時に看護の実践を考察する 4.4.1 チーム活動・カンファレンスに積極的に参加し学びを深める 4.4.2 チームメンバーに関心を持ち行動する 4.4.3 指導者・教員からの指導内容をチーム全体で共有する

発達と子どもを知る実習（1単位 30時間）

I. 実習目的

- 1) 健康な小児の成長・発達とその家族の特徴を理解するとともに、小児と家族を取り巻く社会についても理解を深めることで看護実践の基礎的能力を養う
- 2) 社会や環境が小児と家族にどのような影響を及ぼしているかを考えることができる

II. 実習目標

1. 保育園実習

- 1) 乳幼児期にある小児の成長・発達の特徴を理解する
- 2) 成長・発達段階と個別性を考慮した援助が一部実施できる
- 3) 小児を取り巻く環境を理解し、安全を守るために必要な援助ができる
- 4) 看護学生として責任ある態度や行動がとれる

III. 実習場所

1. 松本市立保育園

IV. 実習時間

臨地実習：15時間

保育園実習 1日7.5時間(8:15～16:45 休憩1時間)×2日＝15時間

学内実習：10時間(下記参照)

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
事前学内実習	3時間	教室	・オリエンテーション ・各実習施設の注意事項等の確認 ・各実習施設の特徴について事前学習、成長発達についての復習を行う ・個人目標とチーム目標の立案
学内実習	6時間	教室	・グループごと学びの共有と、全体での学びの発表
実習まとめ	6時間	教室	・自己の課題のまとめ、チーム目標の振り返り ・個人面談 ・国家試験対策

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 乳幼児期にある小児の成長・発達の特徴を理解する	1.1 健康な乳幼児の成長・発達を学ぶ	1.1.1 保育園で生活している乳幼児と関わり成長・発達を学ぶ - 身体機能の成長・発育を学ぶ - 健康な乳幼児の活動の実際と、コミュニケーションの方法を学ぶ
2. 成長・発達段階と個性を考慮した援助が一部実施できる	2.1 健康な乳幼児の発達段階に応じた日常生活行動の観察と援助の実際を学ぶ	2.1.1 食事、排泄、清潔、睡眠、衣服の着脱、環境の調整などの観察を行い、援助の必要性を考える 小児の発達を促すために必要な援助を考え一部実施する *日常生活援助について事前学習を行う
3. 小児を取り巻く環境を理解し、安全を守るために必要な援助を学ぶ	3.1 小児を取り巻く危険因子が理解できる 3.2 小児の成長・発達に合った事故防止ができる 3.3 感染防止ができる	3.1.1 小児の成長・発達から起こりうる事故の予測ができる *発達段階により起こりやすい事故について事前学習する 3.2.1 小児の成長・発達を考慮した事故防止の援助を必要に応じて実施する - 危険な場面での対応ができる 3.3.1 感染防止の援助を実施する - 施設内の環境整備を一部実施する - 手洗い、含嗽などの感染予防行動を小児と共に行う
4. 看護学生として責任ある態度や行動が取れる	4.1 小児を尊重し誠実な態度で接することができる 4.2 挨拶・言葉遣い、身だしなみが適切にできる	4.1.1 小児に対して誠実に接し、指導者の助言を活かしながら実習に臨む 4.1.2 実習後に自己の実習態度についてリフレクションができる 4.2.1 実習生として、小児・保護者・園の職員・来園者にTPOに合った挨拶・言葉遣い、実習に相応しい身だしなみで臨める

小児の療養生活を支える実習（1単位 45時間）

I. 実習目的

小児各期の成長と発達について理解を深め、健康障害・発達障害を持つ小児とその家族に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う

II. 実習目標

1. 病棟実習

- (1) 小児各期の成長・発達の特徴を理解する
- (2) 健康障害・発達障害が小児・家族へ及ぼす影響を理解し、患児とその家族の全体像を捉えることができる
- (3) 成長・発達段階と健康障害を考慮した看護が実施できる
- (4) 小児を取り巻く環境を理解し、安全を守るために必要な看護が実施できる
- (5) 保健医療チームの一員として責任ある行動がとれる

2. 特別支援学校実習

- (1) 特別支援学校で学ぶ小児の成長・発達の特徴を理解する
- (2) 特別支援学校における小児の生活や学習の特徴を理解する
- (3) 小児に行われている医療的ケアを理解することができる
- (4) 小児を取り巻く環境を理解し、安全を守るための観察や取り組みができる
- (5) 保健医療チームの一員として責任ある行動がとれる

III. 実習場所

独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター 小児科病棟
 長野県立こども病院 北4階病棟、GCU
 長野県寿台養護学校（本校・松ろうキャンパス）・長野県松本ろう学校

IV. 実習時間（1単位45時間）

小児病棟実習 1日7時間（8:30～16:30 休憩1時間）×4日＝28時間

特別支援学校実習 1日3時間（9:15～12:15）×1日＝3時間

学内実習：14時間（下記参照）

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
学内実習 オリエンテーション	臨地実習前日 6時間	教室	・実習目標の立案、グループ目標立案 ・個人面談 ・実習の事前学習
学内実習	実習2週目 月曜日 3時間	教室	・病棟実習での学びの共有 ・特別支援学校実習のオリエンテーション
学内実習 まとめ	臨地実習終了後 の翌日 5時間	教室	・特別支援学校実習での学びの共有 ・実習目標評価、グループ目標評価 ・個人評価面談 ・国家試験対策

V. 実習内容

1. 病棟実習

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 小児各期の成長・発達の特徴を理解する	1.1 患児の成長・発達を理解する	1.1.1 受け持ち患児の成長・発達を観察する 小児各期(新生児期～学童期まで)の事前学習を基に一般的な小児の成長・発達と比較して患児を知る ・形態的特徴：身長・体重、発育指数など ・身体生理的特徴：呼吸機能・循環機能ほか ・感覚機能：視覚・聴覚他 ・運動機能：姿勢・手先の運動他 ・知的機能：思考・自己中心性他 ・コミュニケーション機能：言語の獲得状態他 ・情緒・社会的機能：愛着形成・自立性・自発性・感情・遊びほか 1.1.2 受け持ち患児の日常生活の自立度を知る ・清潔行動・食事行動・排泄行動・睡眠・衣服の着脱など
2. 健康障害・発達障害が小児・家族へ及ぼす影響を理解し、患児とその家族の全体像を捉えることができる	2.1 患児の成長・発達を理解する 2.2 患児の情報を整理することができる 2.3 健康障害、入院生活が患児の心理面・身体面に及ぼす影響が理解できる 2.4 健康上の課題が挙げられる	2.1.1 疾患の原因、症状、治療、検査、看護を理解する 病態生理及び症状別看護について学習しておく (上気道炎・気管支喘息・急性胃腸炎・川崎病等) 2.2.1 入院までの経過及び入院から受け持つまでの経過と症状、行われている治療、検査等について本人・家族、看護師、カルテから情報を得る。 ・現在の健康の段階 ・患児の健康段階とそれに伴う検査、処置、看護を記述する 2.2.2 入院前の患児の生活環境・生活習慣について情報収集する 2.3.1 入院前と入院後の日常生活行動を比較し、健康障害や入院生活が患児に与える影響をアセスメントする ・食事・排泄・睡眠・清潔・遊びなど 2.3.2 健康障害や児が入院することによる家族の問題についてアセスメントする ・家庭に残されている家族・兄弟にも目を向ける ・家族の疲労度、育児感の情報も得る 2.4.1 患児及び家族の抱える課題を把握し、看護の必要性を考える
3. 成長・発達段階と健康障害を考慮した看護が実施できる	3.1 小児の日常生活援助の目的、方法、留意点が理解できる 3.2 発達段階・健康障害を考慮し、患児に必要な援助がわかる 3.3 患児の状態・反応に合わせ根拠に基づいた日常生活援助を実施する	3.1.1 発達段階に応じた日常生活援助について事前学習を行う ・食事・排泄・睡眠・清潔・遊びなど ・フィジカルアセスメントの具体的な方法など 3.2.1 患児の抱える課題を把握し、援助の必要性と根拠を考える ・入院前の自立度・個性性を考慮する ・治療による制限を考慮する ・2.1～2.4を考慮する 3.3.1 患児の反応・状況に応じた方法や優先順位が考えられる ・啼泣時や嫌がる時などの対応(ディストラクション) ・遊びを取り入れた方法 3.3.2 患児の状態に合った具体的で実施可能な計画が立案できる 3.3.3 患児の状態に合わせた援助を実施する ・食事、排泄、清潔、睡眠、衣服の着脱、環境調整などの援助 ・患児の日常生活のパターンに合わせた援助 ・援助方法について、母親と調整が必要な場合は相談する ・大部屋の場合は、他の患児にも配慮して援助を実施する ・初めての援助は必ず看護師とともに進行 ・援助時の反応を評価し興味関心のあるものを工夫する(啼泣時や嫌がる時など)

	3.4 小児科における診療の補助について理解できる	3.3.4 実施した結果を速やかに正確に報告できる 3.3.5 実施した結果をアセスメントする ・バイタルサイン ・症状の観察 ・援助時の反応 等 3.4.1 療支援時の看護師の役割について学ぶことができる ・検査・治療・処置の目的・方法・留意点について事前学習する ・受け持ち患児以外でも積極的に見学・実施する
4. 小児を取り巻く環境を理解し、安全を守るために必要な援助ができる	4.1 患児を取り巻く危険因子が理解できる 4.2 患児の成長・発達及び病状に合った事故防止ができる 4.3 感染防止ができる	4.1.1 患児の成長・発達から入院生活の中で起こりうる事故の予測ができる ・発達段階により起こりやすい事故について事前学習する 4.2.1 患児の病状を考慮し、起こりうる事故の予測ができる ・状態による変化、啼泣時、興奮時 4.2.2 患児の成長・発達を考慮した事故防止の援助を実施する ・転倒、転落、窒息など 4.3.1 患児の状況に応じた感染防止の援助を実施する ・患児の環境整備 ・感染経路別の予防策が実施できる ・看護者の手洗い・含嗽 ・必要時家族への指導 4.3.2 院内感染予防のための病棟管理を理解する（病棟オリエンテーションで説明を受ける）
5. 保健医療チームの一員として責任ある行動がとれる	5.1 保健医療チームの一員としての行動がとれる 5.2 倫理的配慮の基づいた行動がとれる 5.3 学生として責任ある態度で取り組める 5.4 チームメンバーと協力して実習に取り組める	5.1.1 保健医療チームにおける看護師の役割を学ぶとともに、看護学生としての責任のある行動ができる 5.1.2 看護チームの一員として自己の役割を考え、報告・連絡・相談する 5.2.1 知り得た情報を必要な職種と共有する 5.2.2 知り得た情報は保健医療チームで共有することを患者・家族に説明する 5.2.3 小児と家族の個人情報の保護ができる 5.2.4 患者・家族に関心を持ち、思いを傾聴する 5.2.5 小児と家族の人格を尊重し、誠実な態度や適切な言葉遣いをする 5.2.6 今必要な看護援助に対し、持ち合わせている知識・技術で精一杯看護する 5.3.1 時間や期限を厳守する 5.3.2 健康に留意し実習の臨む ・自身が感染源となりうる場合は実習継続あるいは中止の判断をする（発熱時・下痢症状・感染を疑われるもの） 5.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない 5.3.4 自己の課題を知り、解決に向け努力できる 5.3.5 実習終了時に看護の実際を考察する 5.4.1 チーム活動・カンファレンスに積極的に参加し学びを深める 5.4.2 チームメンバーに関心を持ち行動する 5.4.3 指導者・教員からの指導内容をチーム全体で共有する

2. 特別支援学校実習

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 特別支援学校で学ぶ小児の成長・発達の特徴を理解する	1.1 特別支援学校に通う小児の身体的特徴を理解することができる	1.1.1 児童の身体的発育、発達について、一般的な発達と照らし合わせながら理解することができる 指導者の行う援助の見学 児童の学習・活動の状況を踏まえて観察する ・形態的特徴：身長・体重 他 ・身体生理的特徴：呼吸・循環・体温・消化器 ・感覚機能：視覚・聴覚 他 ・運動機能：姿勢・反射 1.1.2 児童の示す反応の意味を知ることができる
2. 特別支援学校における小児の生活や学習の特徴を理解する	2.1 小児の学校生活を知ることができる 2.2 学校生活での日常生活援助について理解することができる 2.3 学習の目的や内容について理解することができる	2.1.1 特別支援学校の環境や、支援の特徴について理解することができる ・学校の環境や特徴についてオリエンテーションを受ける 2.2.1 学校生活における日常生活援助の実際を見学する 2.2.2 見学した日常生活援助を必要とする理由と留意点を理解することができる 2.2.3 聴こえにくさのある小児の生活の特徴や支援について学び、自己の考えをまとめることができる 2.3.1 行われている学習や活動の見学を行う 2.3.2 学習・活動の目的を聞き、小児の個別性について考えることができる ・オリエンテーションを受け、学校での安全対策について理解することができる ・児童の身体可動性を考慮し、安全な関わりができる
3. 小児に行われている医療的ケアを理解することができる	3.1 特別支援学校生活する小児に対して行われている医療的ケアの実際がわかる	3.1.1 医療的ケアの見学とともに、ケアの留意点を理解し、小児の状態を観察することができる 3.1.2 医療的ケアの見学から、事前学習を活用して学びや気づき、自己の考えをまとめることができる
4. 小児を取り巻く環境を理解し、安全を守るための観察や取り組みができる	4.1 特別支援学校で生活する小児を取り巻く危険因子が理解できる 4.2 小児の成長・発達及び状態に合った事故防止や感染予防ができる	4.1.1 小児の発達段階と障がいをもたえて、学校生活の中で起こりうる事故の予測ができる ・学校生活で起こりやすい事故について事前学習する 4.2.1 小児の心身の状態を考慮し、起こりうる事故の予測ができる ・その日の健康状態との関連を考えることができる ・活動の内容との関連を考えることができる 4.2.2 小児の成長・発達、心身の状態を考慮した関りを実施する ・オリエンテーションを受け、学校での安全対策や学校内感染予防について理解する ・児童の身体可動性を考慮し、安全な関わりができる

5. 小児と家族を支援する一員として責任ある行動がとれる	5.1 小児の学校生活を支えるチームの一員としての行動がとれる 5.2 自己の健康管理ができる 5.3 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 5.4 自己の看護を振り返り評価できる	5.1.1 特別支援学校における看護師の役割を学ぶとともに、看護学生としての責任のある行動ができる 5.1.2 特別支援学校における多職種連携について考えることができる 5.2.1 実習中の健康管理ができる 自身が感染源となりうる場合は実習継続あるいは中止の判断をする（発熱時・下痢症状・感染を疑われるもの） 5.3.1 小児と家族の人格を尊重し、誠実な態度で接する 5.3.2 小児と家族の個人情報の保護ができる 5.4.1 実際の看護を通し、看護者としてのあり方、看護者としての自己の態度を考える ・患児と家族との対応 5.4.2 日々のリフレクションができる
-------------------------------------	--	---

女性の健康を支える実習（1単位 30時間）

I. 実習目的

女性のライフサイクルにおける疾患の特徴を理解し、それぞれの発達段階にある女性に対する看護が実践できる基礎的能力を養う

II. 実習目標

- 1) 女性のライフサイクルにおける健康問題の特徴がわかる
- 2) 地域に住む女性の健康に対する意識から発達段階ごとの疾病予防の必要性がわかる
- 3) 地域に住む女性の健康に対する意識を知り、健康事業に参加できる
- 4) 看護学生としてふさわしい態度や行動がとれる

III. 実習場所

スポーツネットワーク SAM松本
 スポーツクラブ ルネサンス松本
 セントラルフィットネスクラブ24松本

IV. 実習時間（1単位 30時間）

臨地実習：健康事業9時間

学内実習：21時間（下記参照）

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
オリエンテーション 事前学習	6.6時間	教室	実習の進め方について、学習内容を知る ・オリエンテーション ・各実習施設の特徴について事前学習 ・チーム目標、自己目標の立案（個人面談）
健康事業見学・参加	9時間	松本市内	・地域の女性が通う松本市内の健康事業に参加・見学 ・地域の女性の健康意識について知る ・見学後、学内にてまとめ
学内実習	7.8時間	教室	・地域の女性の健康課題、予防方法についてのまとめ（個人・グループ） ・発達段階ごとの違い ・自己の健康に対する意識
実習まとめ	6.6時間	教室	・クラス全体での学び共有 ・自己課題の明確化

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. ライフサイクルにおける健康問題の特徴がわかる	1.1 各発達段階における健康問題の特徴が述べられる	1.1.1 講義で学んだ内容を活かし事前学習を行い女性のライフサイクルにおける健康問題を理解する ・発達段階の特徴 ・発達段階ごと特有の疾患 ・女性の健康を支える看護の授業内容 1.1.2 対象となる発達段階の特徴を知る

2. 地域に住む女性の健康に対する意識から各発達段階における健康予防の必要性がわかる	2.1 各発達段階における健康問題が関わりからわかる 2.2 対象者との関わりの内容から必要な健康予防法が考えられる	2.1.1 対象者との関わりから、各発達段階の健康に対する意識調査ができる 2.1.2 調査した内容から各発達段階の健康に対する問題があげられる 2.2.1 調査した内容から各発達段階の健康問題に対する予防法が考えられる 2.2.2 学内実習で共有を行い、発達段階における健康認識の違いが分かる
3. 松本地域に住む女性の健康に対する意識を知り、健康事業に参加できる	3.1 松本市で行われている健康事業について説明できる 3.2 事業参加者の健康に対する意識がわかる 3.1 事業に参加することで、自己の健康に対する意識が高められる	3.1.1 地域の健康事業について、講義で学んだ内容から考えられる 3.2.1 健康事業参加している女性との関りから、健康に対する意識を知ることができる 3.2.2 学内実習で共有を行い、発達段階における健康認識の違いが分かる 3.3.1 健康事業に参加し健康について考えられる 3.3.2 自己の健康に対する意識を述べられる
4. 看護学生としてふさわしい態度や行動がとれる	4.1 倫理的配慮に基づいた行動が取れる 4.2 学生として責任ある行動が取れる	4.1.1 知り得た情報は必要な場での共有のみとする 4.1.2 相手を尊重した言葉遣い、態度で接することができる 4.2.1 健康や感染予防に留意して実習に臨む 4.2.2 時間に留意し実習に臨むことができる

母親になることを支える実習（1単位 45時間）

I. 実習目的

周産期における母児の特徴を理解し、妊娠、分娩、産褥・新生児、各期における母児の看護が実践できる基礎的能力を養う

II. 実習目標

- 1) 産褥期の経過および看護が理解できる
- 2) 看護過程の展開を通して、アセスメントから母児に必要な援助が考えられる
- 3) 母子相互作用を促進し、愛着形成のための援助が理解できる
- 4) 新生児の生理的特徴と身体的特徴が理解できる
- 5) 保健医療チームの一員として責任ある態度や行動がとれる

III. 実習場所

国立大学法人 信州大学医学部附属病院 南4階病棟
社会医療法人抱生会 丸の内病院 4階病棟

IV. 実習時間（1単位 45時間）

病棟実習 1日9時間 信州大学病院（8:00～15:45 休憩60分）
丸の内病院（8:30～16:15 休憩60分）×3日＝27時間
学内実習 18時間（下記参照）

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
オリエンテーション	4時間	教室	• 実習に必要な学習を計画的に進めるために、実習の目的・目標や具体的学習内容を知る • 目標面接
事前学内	7時間	教室	• 産褥・新生児期学習
実習まとめ	7時間	教室	• 最終カンファレンス • 実習記録まとめ • チーム目標の振り返り • 目標評価・面談

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 産褥期の経過及び看護が理解できる	1.1 産褥期の生理的・心理的变化が理解できる 1.2 産褥期に必要な看護がわかる	1.1.1 産褥経過を事前学習する • 産褥期における一般的な生理的变化をふまえた母親の特徴を把握する • 産褥期における母親の心理的变化の特徴 1.2.1 生殖器復古促進のための援助を学習する • 悪露の観察、子宮収縮の観察、授乳のすすめ、排泄の管理等 1.2.2 乳汁分泌機序がわかり、乳汁促進のための援助を学習する 1.2.3 退院後の生活が円滑に送れるための指導を見学する • 沐浴指導 • 産褥指導 • 母児同室指導 • 乳房マッサージ等

2. 看護過程の展開を通して、妊娠・分娩・産褥と一連の流れをアセスメントし、母児に必要な援助が考えられる	2.1 妊娠、分娩をふまえての情報収集ができる 2.2 情報収集からアセスメントができる 2.3 情報の分類・解釈・分析がわかる 2.4 アセスメントを通して母児に必要な援助が理解でき、実施できる	2.1.1 カルテ・褥婦等から情報を得る - 母児の妊娠経過・健康障害が分娩に及ぼす影響 - 母児の妊娠・分娩経過・健康障害が産褥・新生児に及ぼす影響 - 入院前の生活習慣・生活環境 - 妊婦健康診査の受診状況、健康教室の受講状況 - 初・経産婦の別をふまえた母親の母性観・育児観 2.2.1 情報からアセスメントする - 産褥経過が正常か異常か - 社会的・家庭での役割を視点とした社会的特徴 - 退院後の生活を円滑に送るための社会資源 2.3.1 情報関連図の記載 2.3.2 退行性変化、進行性変化、心理・適応過程、家族・適応過程、生活・社会環境、新生児の視点で、解釈分析する 2.4.1 母児に必要な援助をウェルネスの視点を含めて考える 2.4.2 個別性を意識した看護が考えられるよう、情報収集(申し送り等)や観察をする。また、積極的に援助を行う - 安全・安楽な日常生活への看護の必要性を考える
3. 母子相互作用を促進し、愛着形成に必要な援助が理解できる	3.1 母子相互作用を促進するための援助を見学することで理解を深める	3.1.1 母親が行う授乳・おむつ交換・抱っこなどの様子から考える 3.1.2 母子相互作用を促進するための援助を見学し、一部実施する 3.1.3 家族の関わりについても情報を面会者から学ぶ
4. 新生児の生理的特徴と身体的特徴が理解できる	4.1 新生児の生後日数に伴う生理的変化が一般的な変化と対比して理解できる	4.1.1 新生児の特徴を事前学習する 新生児における一般的な生理的変化をふまえた児の特徴(呼吸・循環・体温・尿・便・体重・黄疸・反射等) 4.1.2 フィジカルアセスメントを見学しまたはカルテからの情報を用いて正常か異常かを判断する
5. 保健医療チームの一員として責任ある態度や行動がとれる	5.1 保健医療チームの一員として行動ができる 5.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 5.3 学生として責任ある態度で取り組める	5.1.1 看護チームの一員として自己の役割を考え報告・連絡・相談する 5.1.2 知り得た情報を必要な職種と共有する 5.2.1 知り得た情報は保健医療チームで共有することを患者に説明する 5.2.2 患者・家族に関心を持ち、思いを傾聴する 5.2.3 相手を尊重した言葉遣いをする 5.2.4 今必要な看護援助に対し、持ち合わせている知識・技術で精一杯看護する 5.2.5 実施した看護を通し、自己の態度を振り返る - 患者・家族との対応 - 指導者及びスタッフとの対応 5.3.1 時間や期限を厳守する 5.3.2 健康に留意し、実習に臨む 5.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない

	5.4 チームメンバーと協力して実習に取り組める	5.3.4 自己の課題を知り、解決に向け努力できる 5.3.5 実習終了時に看護の実際を考察する 5.4.1 チーム活動・カンファレンスに積極的に参加し学びを深める 5.4.2 チームメンバーに関心を持ち行動する 5.4.3 指導者・教員からの指導内容をチーム全体で共有する
--	---------------------------------	--

こころの健康と生活を支える実習（1単位 30時間）

I. 実習目的

こころの病気をもちながらその人らしく地域で生活するための様々な支援がわかる

II. 実習目標

1. 地域生活への移行に必要な支援体制がどのような役割を果たしているか説明できる
2. こころを病む人が地域で生活していく上で求められる専門職の役割および連携を知る
3. 地域で生活する心を病む人の思いを知る
4. 看護学生として責任ある態度や行動がとれる

III. 実習場所

1. 精神科デイケア
2. 就労継続支援B型事業所

IV. 実習時間

臨地実習 18時間

精神科デイケア 6時間（9:00～16:00 休憩60分含む）×1日＝6時間

就労継続支援B型事業所 3時間（9:30～12:30）×2日＝6時間

学内実習：12時間

学内実習内容	日時	学習場所	内 容
オリエンテーション	2時間	教室	・実習に必要な学習を計画的に進めるために、実習の目的・目標や具体的学習内容を知る
事前学習・個人面談	4時間	教室ほか	事前学習の内容確認とチーム共有 精神科デイケア ▶ デイケアの役割、 ▶ 精神科リハビリテーション 就労継続支援B型事業所 ▶ 障害者総合支援法に基づく福祉サービス（自立支援給付、地域生活支援事業） ▶ 福祉制度（自立支援医療、精神障害者福祉手帳、障害者年金、生活保護） ・教科書、講義資料などの必要部分を活用できるように工夫して準備学習をする ・不足部分は追加学習ができる ・実習目標の確認を受ける
実習まとめ、学びの発表	4時間	教室	・チームで心を病む人が生活していく上で求められる専門職の役割および連携について考える ・心を病む人が地域で生活するための課題は何か考える（互助、共助、公助の視点） ・各チームによる学びの発表 ・意見交換と課題の抽出
個人面談	2時間	教室ほか	・実習前目標の振り返りと自己評価を行い、自己の課題を抽出する

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 地域生活への移行に必要な支援体制がどのような役割を果たしているか考えることができる	1.1 実習施設の役割・機能について記述できる	1.1.1 精神科デイケア、精神科訪問看護就労支援の役割・機能を事前学習する 1.1.2 実習施設オリエンテーションを受け、事前学習と比較し、各施設の特徴を比較する
	1.2 実際の支援活動が記述できる	1.2.1 職員から実際の支援活動の説明を受ける ・どのような人々が対象であるか ・支援の目的 ・活動内容と大切にしていること 1.2.2 見学した施設の活動内容と支援の目的を考え、記録用紙に記述する 1.2.3 見学した学びを他のチームメンバーに伝える 1.2.4 学内実習でチームメンバーに情報共有する
2. 心を病む人が地域で生活していく上で求められる専門職の役割および連携を知る	2.1 地域生活支援における他職種の特徴と連携を記述できる	2.1.1 地域生活を支援する多職種の特徴を調べる 2.1.2 各職種の役割の実際について説明を受ける 2.1.3 連携の実際を説明を受ける 2.1.4 事前学習と比較し、学びを記録用紙に記載する 2.1.5 学びの共有の学習内容を追加し、特徴と連携を記述する
3. 地域で生活する心を病む人の思いを知る	3.1 地域で暮らす心を病む人の思いを具体的に述べられる	3.1.1 職員と関わっている対象者の反応を観察する 3.1.2 コミュニケーションをとる場合は、職員に許可を得て行う ・思いや望む生活などを聞く 3.1.3 プログラムや作業参加する場合は、職員に許可を得て行う 3.1.4 地域で各支援がなぜ必要なのか考える 3.1.5 ころを病む人が地域で生活するための課題や疑問は何か列挙し、まとめの会で発表する
4. 看護学生として責任ある態度や行動がとれる	4.1 保健医療チームの一員として行動がとれる 4.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 4.3 学生として責任ある態度・行動がとれる 4.4 チームメンバーと協力して実習に取り組める	4.1.1 保健医療福祉チームとしての自己の役割を考え報告・連絡・相談する 4.1.2 知り得た情報を必要な職種と共有できる 4.2.1 対象者に関心を持ち、思いを傾聴する 4.2.2 相手を尊重した言葉遣いをする 4.2.3 持ち合わせている知識・技術で精一杯の行動をする 4.3.1 時間や期限を厳守できる 4.3.2 健康や感染予防に留意し、実習に臨む 4.3.3 相手に不快感を与えない身だしなみで臨む 4.3.4 4.1～4.3.3をふまえ、自己の態度・行動を振り返り自己課題に向けて努力をする（プロセスレコードを記載する） 4.4.1 チーム活動・カンファレンスに積極的に参加し学びを深める 4.4.2 チームメンバーに関心を持ち行動をする 4.4.3 指導者・教員からの指導内容をチーム全体で共有する

精神疾患患者の療養生活を支える実習（2単位 60時間）

I. 実習目的

こころを病む人とのその人らしさを尊重しながら関わりを通して精神看護の対象や自分自身の傾向がわかり、心の健康を回復するための看護の役割を学び、自らの心の健康を維持する基礎的能力を養う

II. 実習目標

- 1) こころを病む人との関わり方を学び、その人との人間関係を成立する過程で自己を振り返り、看護を実践できる
- 2) 保健医療チームの一員として看護師の役割がわかり、責任ある態度や行動がとれる

III. 実習場所

1. 医療法人 芳州会 村井病院
2. 医療法人 和心会 松南病院

IV. 実習時間（2単位 60時間）

臨地実習 42時間：1日7時間（8:30～16:30 休憩1時間）×6日間

学内実習 18時間：（下記参照）

内 容	日時	目 的	
オリエンテーション	6時間	教室	・実習に必要な学習計画を進めるために、実習の目的・目標や具体的学習内容を知る
事前学内	6時間	教室	・受け持ち患者を決定し、疾患・治療・看護について必要な資料を検索し、患者把握や看護実践が円滑にいくための学習計画を立てる実習病院の特性や留意点を知る ・目標面接
学内実習（中間）	4時間	教室	・アセスメントの整理、個別指導
学内実習（まとめ）	6時間	教室	・実施した看護を振り返る ・チーム目標を振りかえる ・自己の課題を明確にする ・国家試験対策

V. 実習内容

1. 精神科急性期実習

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 心を病む人との関わり方を学び、その人との人間関係を成立する過程で自己を振り返り、看護が実践できる	1.1 受け持ち患者の現在に至るまでの人生を説明できる	1.1.1 カルテ、参与観察、担当医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士などから受け持ち患者の情報を収集し、生育歴や生活歴を捉える 1.1.2 コミュニケーション技術（言語的・非言語的コミュニケーション）を用い、患者の思いを知る 1.1.3 表情、しぐさ、意欲の有無、人付き合いなど非言語的なコミュニケーションを通し、患者の視点でその意味を考える 1.1.4 自己の価値観で捉えず、患者の表現していることを受け取り、その意味を考える 1.1.5 適切な心理的距離を保ち観察する

	1.2 受け持ち患者の症状や障害が日常生活や対人関係にどのような影響があるか考え、述べられる 1.3 「その人らしさ」を活かした関わりや援助が実施できる 1.4 受け持ち患者との関わりを通し、自己の傾向を知り、関わりに活かすことができる	1.2.1 受け持ち患者の病態、検査、治療、看護について学習する 1.2.2 受け持ち患者に行われている治療はどのような意味があるのかアセスメントする *治療の実際は病棟に許可を得て、見学をする(薬物療法、リハビリテーション療法、精神療法など) 1.2.3 精神症状やセルフケアの状況を身体的・心理的・社会的側面から情報収集し、現状をアセスメントする *社会の中で置かれている状況や家族も含めたそれぞれの思いも心理的・社会的側面の情報として整理する *社会資源の活用について考えられる情報を収集する *家族がいない患者の場合、過去の家族との関係や現在支援してくれている人との関係について看護師に確認する 1.3.1 実習目標 1.1、1.2を活かし、セルフケアの支援を考える *リカバリーの実現を支える看護、レジリエンス、ストレンギス、エンパワメントの視点 1.3.2 患者本人の意向を踏まえ、根拠を明確にし、必要な援助を考える *現実的な方向性を見出す 1.3.3 学生が実施できる援助だけではなく、患者が必要としている支援や援助を考える 1.3.4 精神看護における安全・安楽・自立を考慮し、実施する 1.3.5 カンファレンスでの学びを活かした関わりや援助を行う 1.3.6 日々の看護援助については、実習指導者、病院スタッフ、教員に相談し実施する 1.4.1 毎日、受け持ち患者との関わりについてプロセスレコードを記載する 1.4.2 自分の感情について自己の傾向を知り、言語化する 1.4.3 自分の感情などが相手に及ぼす影響を考える 1.4.4 他者の意見を活かし、自分の傾向に気づく 1.4.5 臨地実習4日目または5日目に看護場面の再構成カンファレンスを行い、自己の傾向や患者の傾向に基づき、患者との関り方について改善点や工夫点が考えられる 1.4.6 実際に関わった結果を振り返り、さらに次の関わりに活かす 1.4.7 必要時は実習指導者や教員に相談したり、アドバイスの内容を確認する
2. 保健医療チームの一員として看護師の役割がわかり、責任ある態度や行動がとれる	2.1 保健医療チームの一員として行動がとれる	2.1.1 実習や病院のルールなど、その目的や意味を考えて行動する 2.1.2 指導者に報告・連絡・相談する時は、情報の意味を考えて発言する 2.1.3 病棟スタッフに情報を求める場合は、何のためにどのような情報をとるのか明確にし、相手の立場を考えタイミングや表現方法を考える 2.1.4 自分自身の考えや意見を持つ努力をする *自分の価値観や考えに拘りすぎず、かつ、相手の意見や判断だけに委ねてしまわないように心かける

	2.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 2.3 学生として責任ある態度・行動がとれる 2.4 チームメンバーと協力して実習に取り組める	2.2.1 知り得た情報を必要な職種と共有する 2.2.2 患者・家族に関心を持ち、想いに耳を傾ける 2.2.3 相手を尊重した言葉遣いをする 2.3.1 時間や期限を厳守できる 2.3.2 閉鎖された空間での感染予防を考え、健康面を考慮し自己管理できる 2.3.3 身だしなみを整え、相手に不快感を与えない 2.3.4 2.1 ～ 2.4を踏まえ、リフレクション用紙に他者との関わり、学習や生活の仕方などについて気づいたことを振り返り自己成長につなげる 2.3.5 必要な学習を判断し、主体的に学習する 2.4.1 チーム内で自分の役割を意識した行動をとる 2.4.2 チーム活動・カンファレンスに積極的に参加し学びを深める 2.4.3 チームメンバーに関心を持ち行動できる 2.4.4 指導者・教員からの指導内容をチーム全体で共有できる
--	---	--

統合実習（2単位 90時間）

I. 実習目的

知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員として複数の対象者に適切な看護を実践する基礎的能力を養う

II. 実習目標

1. 複数患者を受け持ち、多重課題の中で優先順位が判断できる
2. 患者の状況を踏まえて複数患者へ安全・安楽な援助ができる
3. 看護管理の実際を知ることにより、医療チームにおける看護の役割について理解を深められる
4. 保健医療チームの一員として自己の課題がわかる

III. 実習場所

独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター

社会医療法人財団慈泉会 相澤病院

社会医療法人財団慈泉会 相澤東病院

IV. 実習時間（2単位 90時間）

臨地実習：67.5時間 7.5時間（8：30～17：00 休憩60分）×9日

学内実習：22.5時間（下記参照）

日時	学習場所	内 容
1.5時間	教室	・オリエンテーション ・統合実習の目的・目標を理解し、計画的に学習を進めることができる - 自己の目標や課題を明確にする
15時間	教室	・看護管理の概要が理解できる ・サービスマネジメント、ケアマネジメントを理解する ・多重課題の優先順位、時間管理の考え方を整理する ・事例を用いて、複数受け持ちの行動計画を立案する ・事例患者の看護の実際（1日の流れを行う） ・患者ケアカンファレンスについて
6時間	教室	実習まとめ ・実習病棟の特徴、学びをグループ毎発表し共有する ・実習評価

V. 実習内容

実習目標	行動目標	実習内容及び方法
1. 複数患者を受け持ち、多重課題の中で優先順位が判断できる	1.1 複数患者の看護実践するための情報を把握できる	1.1.1 受け持ち患者の情報収集を行い優先度の高い看護問題を理解する 1.1.2 検査・処置等の時間を確認し、援助の時間を調整する 1.1.3 申し送りから、受け持ち患者の病状変化や治療方針の変更を理解する 1.1.4 指導者からの助言や多職種からの情報も積極的に行う
	1.2 必要な看護の優先順位が考えられる	1.2.1 自己の能力を判断し、時間配分を考慮して計画の立案をする 1.2.2 受け持ち患者と援助方法や援助方法や時間を調節する 1.2.3 カンファレンスを適宜行い計画の追加修正を行う

2. 患者の状況を踏まえて複数患者へ安全・安楽な援助ができる	2.1 患者の状態に応じ、必要な援助を実践できる	2.1.1 援助の可否と優先順位を判断し、方法や留意点を指導者に確認する 2.1.2 患者の自立度に合わせた援助を実施する 2.1.3 患者の安全・安楽を考慮して援助を実施する 2.1.4 援助実施後SBARを活用した報告をする 2.1.5 援助実施後必要な情報を判断して申し送りをする（昼休憩前後、日勤リーダー、夜勤看護師）
3. 看護管理の実際を知ることにより、医療チームにおける看護の役割と機能について理解を深められる	3.1 チームリーダー、チームメンバーの役割を理解できる 3.2 看護管理の実際を理解する	3.1.1 チームメンバーと共に行動し、多重課題に対する対応や時間管理を見学する（1日の組み立て方を知る） 3.1.2 リーダーへの報告や看護師間の情報の共有、協働の実際を知る 3.1.3 チームリーダーと共に行動し、リーダーの役割を見学する ＊チームメンバーとの連絡調整の実際 ＊リーダー業務を行う上で心がけていることを聞く 3.1.4 医師への報告・連絡・相談の実際を知る 3.1.5 多職種との連絡・調整の実際を知る 3.1.6 病棟管理者への報告・連絡・相談の実際を知る 3.2.1 病院組織における看護管理について知る A. 病院組織における看護管理について a. 看護組織としての機能 b. 看護理念 c. 看護方式と看護体制（夜勤体制を含む） d. 職員の配置 e. 看護基準・手順 3.2.2 病棟管理者と行動を共にし、看護管理の実際を見学し役割と業務について知る B. 病棟管理者の役割と業務について a. 病床管理 b. 職員・学生の教育指導 c. 安全管理、物品管理 d. 他部門との連絡調整 e. 看護部組織の中で報告・連絡・調整の実際 f. 職員の配置（チームごと） g. 勤務時間管理の実際 h. 職員の健康管理 C. 病棟の特徴、管理者としての看護観など 3.2.3 病棟管理者が管理をする上で心がけていることを聞く 3.2.4 病棟管理者の管理見学を通し役割を考察する 3.2.5 「看護マネジメント」「サービスマネジメント」「ケアマネジメント」の実際がわかる

4. 保健医療チームの一員として自己の課題がわかる	4.1 保健医療チームの一員として行動ができる 4.2 倫理的配慮に基づいた行動がとれる 4.3 組織の一員として責任ある態度で取り組める	4.1.1 看護チームの一員として自己の役割を考え報告・連絡・相談する 4.1.2 患者の状態や状況について考え、適切な人を選択し、報告・連絡・相談をする 4.1.3 知り得た情報を必要な職種、チームメンバーと共有（報告・連絡・相談）する 4.1.4 チーム活動・カンファレンスに積極的に参加し学びを深める 4.2.1 知り得た情報は保健医療チームで共有することを患者に説明する 4.2.2 患者・家族に関心を持ち、思いを傾聴する 4.2.3 相手を尊重した言葉遣いをする 4.2.4 今必要な看護援助に対し、持ち合わせている知識・技術で精一杯看護する 4.2.5 実施した看護を通し、自己の態度を振り返る • 患者・家族との対応 • 指導者及びスタッフとの対応 4.3.1 時間や期限を厳守する 4.3.2 健康に留意し、実習に臨む 4.3.3 身だしなみを整え相手に不快感を与えない 4.3.4 日々必要な学習を自ら感が学習をする 4.3.5 自己の課題を知り、解決策まで考えられる 4.3.6 自己の課題に対し、解決に向けた努力ができる
----------------------------------	--	---